

学校安全総合支援事業（文部科学省委託事業）

令和3年度学校防災アドバイザー派遣事業
報告書

令和4年2月 香川県教育委員会

はじめに

我が国は、近い将来に発生が懸念されています南海トラフ巨大地震、激甚化・頻発化する豪雨、台風などの計り知れない自然災害のリスクに直面しています。また、学校における活動中の事故や登下校中における事故・事件、SNSの利用による犯罪など子どもたちの安全を脅かす様々な事案も次々と顕在化しています。

このような中、学校は、児童生徒等が生き生きと活動し、安心して学べるようにするために、児童生徒等の安全の確保が保障されることが大切です。本報告書により、改めて学校における安全、安心とは何か、児童生徒等が安全、安心に生活できる学校とはどのようなものなのかを問い直すきっかけになれば幸いです。

香川県教育委員会では、平成24年度から、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する本事業の推進委員会を設置し、各学校（園）等の防災体制整備や防災教育のさらなる充実に向けた取組みについて検討してきました。また、希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、要望に応じて危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言、地域と学校との連携体制への助言等を実施してきました。このアドバイザーとして、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、香川県防災士会、日本技術士会四国本部、高松地方気象台の皆様方に御協力をいただいております。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となりましたが、県内公立高校生を対象に、「高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成研修」を開催しています。この研修会は、夏休み期間中に香川大学と連携して、災害時のボランティア活動に関する基本的な理解を深めるとともに、防災体験や救護体験等を通して、災害時ボランティアリーダーの養成や支援者としての視点を身に付けることを目的に実施しています。

本報告書は、今年度に本事業を活用した17校（園）の取組みや、災害時の支援活動に貢献できる力を身に付けるための防災教育の取組みをまとめたもので、ここには、学校（園）における防災体制整備や防災教育に向けた貴重な情報が盛り込まれています。各学校（園）におかれましては、それぞれの実態に応じて本書をご活用いただき、各学校（園）の取組みの一助としていただきますようお願いいたします。

結びに、本報告書の作成にあたり貴重な実践資料を御提供いただきました学校（園）、本事業の推進に御尽力いただきました推進委員会、学校防災アドバイザー、関係機関、関係団体、教育委員会の皆様方に心から御礼を申し上げます。

令和4年2月

香川県教育委員会事務局
保健体育課長 宮滝 寛己

目 次

I 令和3年度 学校防災アドバイザー派遣事業

1 学校防災アドバイザー派遣事業とは	1
2 令和3年度学校防災アドバイザー派遣計画表	2
3 令和3年度学校防災アドバイザー派遣事業の経緯	3
4 令和3年度本事業の成果と課題	5

II 各学校（園）の取組み

1 防災計画や危機管理マニュアル等への助言

○ 琴平町立象郷小学校	11
○ 坂出市立林田幼稚園	12
○ 高松市立仏生山小学校	13

2 学校と保護者、地域、関係機関等と連携した避難訓練や防災教育等への助言

○ 琴平町立琴平小学校	15
○ 坂出市立加茂幼稚園	19
○ 東かがわ市立丹生こども園	21
○ 坂出市立東部小学校	22
○ 坂出市立東部小学校	24
○ 琴平町立象郷小学校	26
○ 香川県立多度津高等学校	28
○ 高松市立大野小学校	29
○ 高松市立大野小学校	31
○ 高松市立三溪幼稚園	33
○ 高松市立国分寺北部幼稚園	36
○ 丸亀市立飯野小学校	38
○ 高松市立川東小学校	39
○ 高松市立多肥幼稚園	45
○ 高松市立古高松南小学校	47
○ 観音寺市立大野原中学校	49

3 教職員の研修会等への助言

○ 綾川町立綾上小学校	53
○ 観音寺市立大野原中学校	55

関係資料

I 令和3年度 学校防災アドバイザー派遣事業

1 学校防災アドバイザー派遣事業とは

(1) 本事業の趣旨

南海トラフ地震が今後30年以内に70～80%の確率で発生すると言われていた中、各学校（園）においては、危機管理マニュアル等の継続的な検証・見直しによる防災体制の整備、実効性のある避難訓練の実施による地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築・整備が求められている。また、災害発生時において、発達段階に応じて児童生徒等一人ひとりが状況を的確に判断し、学校（園）や社会の一員として適切に行動することができる能力や態度を育成する、防災教育の充実がますます重要となってきた。

そこで、本事業は、所在地が津波浸水予想区域や土砂災害警戒区域に含まれる学校（園）、災害環境や課題が共通する学校（園）、防災をテーマとした研修会、研究団体等に本事業の活用を希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言等を行うことによって、各学校（園）等の防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図ることをねらいとして実施するものである。

(2) 事業内容

香川県教育委員会が、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する推進委員会の助言のもとに講師を派遣する。

① 主な派遣講師

- ・ 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員
- ・ 香川県防災士会所属防災士
- ・ 日本技術士会四国本部所属技術士
- ・ 高松地方気象台職員

② 主な助言内容

- ・ 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
- ・ 様々な想定や緊急地震速報受信システムの活用、地域の防災関係機関（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織等）と連携した実効性のある避難訓練等への助言
- ・ 小学生向け防災副読本の活用、防災マップ作り、災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言
- ・ その他、本事業の趣旨に沿って学校（園）等と相談

2 令和3年度学校防災アドバイザー派遣計画表

No.	実施月日	所在地	学校（園）等名	校種	派遣 アドバイザー	事業活用		
						H30	R 1	R 2
1	6月22日	綾川町	綾川町立 綾上小学校	小	香川大学 1名 防災士会 1名	—	—	—
2	7月1日	琴平町	琴平町立 琴平小学校	小	技術士会 2名 防災士会 2名	—	—	—
3	7月2日	坂出市	坂出市立 加茂幼稚園	幼	技術士会 1名 防災士会 2名	—	—	—
4	7月15日	東かがわ市	東かがわ市立 丹生こども園	こ	香川大学 1名 防災士会 2名	—	—	○
5 ※1	8月5日	観音寺市	観音寺市立 大野原中学校	中	香川大学 1名 防災士会 2名	—	—	—
6 ※1	9月1日	琴平町	琴平町立 象郷小学校	小	技術士会 1名 防災士会 2名	—	—	—
7	9月14日	坂出市	坂出市立 林田幼稚園	幼	香川大学 1名 防災士会 2名	—	—	—
8 ※1	9月28日	坂出市	坂出市立 東部小学校	小	香川大学 2名 防災士会 2名	—	○	○
9 ※2	9月29日	琴平町	琴平町立 象郷小学校	小	技術士会 2名 防災士会 2名	—	—	—
10	10月8日	多度津町	香川県立 多度津高等学校	高	香川大学 1名	○	○	○
11 ※2	10月12日	坂出市	坂出市立 東部小学校	小	香川大学 2名 防災士会 2名	—	○	○
12 ※1	10月20日	高松市	高松市立 大野小学校	小	香川大学 2名 防災士会 1名	○	○	○
13 ※2	10月22日	高松市	高松市立 大野小学校	小	香川大学 1名 防災士会 1名	○	○	○
14	10月22日	高松市	高松市立 三溪幼稚園	幼	香川大学 2名 防災士会 2名	—	—	—
15	10月27日	高松市	高松市立 国分寺北部幼稚園	幼	香川大学 1名 防災士会 2名	—	○	—
16	11月1日	丸亀市	丸亀市立 飯野小学校	小	香川大学 1名 防災士会 1名	—	—	—
17	11月10日	高松市	高松市立 川東小学校	小	香川大学 2名 防災士会 2名	—	—	—
18	11月16日	高松市	高松市立 多肥幼稚園	幼	香川大学 1名 防災士会 2名	—	—	—
19	11月24日	高松市	高松市立 古高松南小学校	小	技術士会 1名 防災士会 2名	—	—	○
20 ※2	11月26日	観音寺市	観音寺市立 大野原中学校	中	香川大学 1名 防災士会 2名	—	—	—
21	12月21日	高松市	高松市立 仏生山小学校	小	技術士会 2名 防災士会 1名	—	—	—

※1、2はR3年度複数回実施した学校

3 令和3年度学校防災アドバイザー派遣事業の経緯

○学校安全総合支援事業（文部科学省委託要項から抜粋）

- 学校種・地域の特性に応じた学校安全推進体制の構築を図るため、下記の事業を実施する。
- (1) モデル地域を設定し、学校安全の推進体制を県内に普及するための支援事業の実施
 - (2) モデル地域の拠点校を中心に地域学校間で連携し、各校中核教員を通じて、各学校の取組み等を共有する事業の実施
 - (3) 学校安全計画の改善、見直しなど、学校安全の取組みの推進・支援事業の実施

○学校防災アドバイザー派遣事業（文部科学省委託事業を受け、平成24年度から実施）

外部の専門家を学校防災アドバイザーとして学校に派遣し、学校間・地域住民・保護者・関係機関との連携強化や危険等発生時対処要領等の作成・検証に関する指導・助言などを行い、組織的な学校の安全管理体制の構築・強化を行うことにより、学校を含めた地域全体としての安全水準の向上を図る。

(1) 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会

① 推進委員会第1回会議

日時 新型コロナウイルスの感染拡大のため、紙面開催（6月上旬）

内容

- 1) 委員紹介
- 2) 事業説明
 - ・ 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱について
 - ・ 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領について
- 3) 委員長、副委員長選出
- 4) 協議
 - ・ 学校防災アドバイザー派遣事業の希望状況と派遣校（園）の決定について
 - ・ 学校防災アドバイザー派遣に係る助言について

② 推進委員会第2回会議

日時 令和4年1月21日（金） オンライン開催

内容

- 1) 本事業の成果と課題について
- 2) 本事業の取組みの成果の普及について
- 3) 本事業の継続的な運用について

③ 推進委員

No.	氏 名	所 属
1	長谷川 修一	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長
2	白木 渡	香川県防災士会 会長
3	細谷 芳照	日本技術士会四国本部 副本部長
4	塩田 広宣	香川県危機管理総局危機管理課 課長
5	長尾 剛司	高松市消防局 次長
6	田嶋 三枝	善通寺市立竜川幼稚園 園長（香川県国公立幼稚園・こども園長会）
7	真鍋 佳樹	三豊市立詫間小学校 校長（香川県小学校長会）
8	半山 章人	坂出市立白峰中学校 校長（香川県中学校長会）
9	秋山 文孝	香川県立高松桜井高等学校 校長（香川県高等学校長協会）
10	吉田 稔	香川県立盲学校 校長（香川県特別支援学校長会）
11	山田 士郎	香川県P T A連絡協議会 副会長
12	池内 理恵	香川県教育委員会事務局東部教育事務所 主任指導主事
13	藤田 篤志	香川県教育委員会事務局西部教育事務所 主任指導主事
14	宮滝 寛己	香川県教育委員会事務局保健体育課 課長

（２）学校防災アドバイザー事前打合せ会

- 日 時 令和3年6月18日（金） オンライン開催
- 参加者 学校防災アドバイザー
- 主な内容
 - 1) 学校防災アドバイザー派遣事業について
 - 2) 派遣計画等について
 - 3) 実施方針、助言内容について
 - 4) アドバイザー研修
 - ・ アドバイザーの姿勢と留意点（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構）
 - ・ アドバイザーの実践報告事例について（日本技術士会四国本部）
 - ・ アドバイザー実践報告事例について（香川県防災士会）

（３）高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会

※新型コロナウイルスの感染拡大のため、開催中止

4 令和3年度本事業の成果と課題

(1) 活用状況

○派遣校（園）回数 17校（園） 21回

○17校（園）の内訳

- ・幼稚園：5園
- ・こども園：1園
- ・小学校：9校
- ・中学校：1校
- ・高等学校：1校

(2) 各学校（園）の具体的な成果

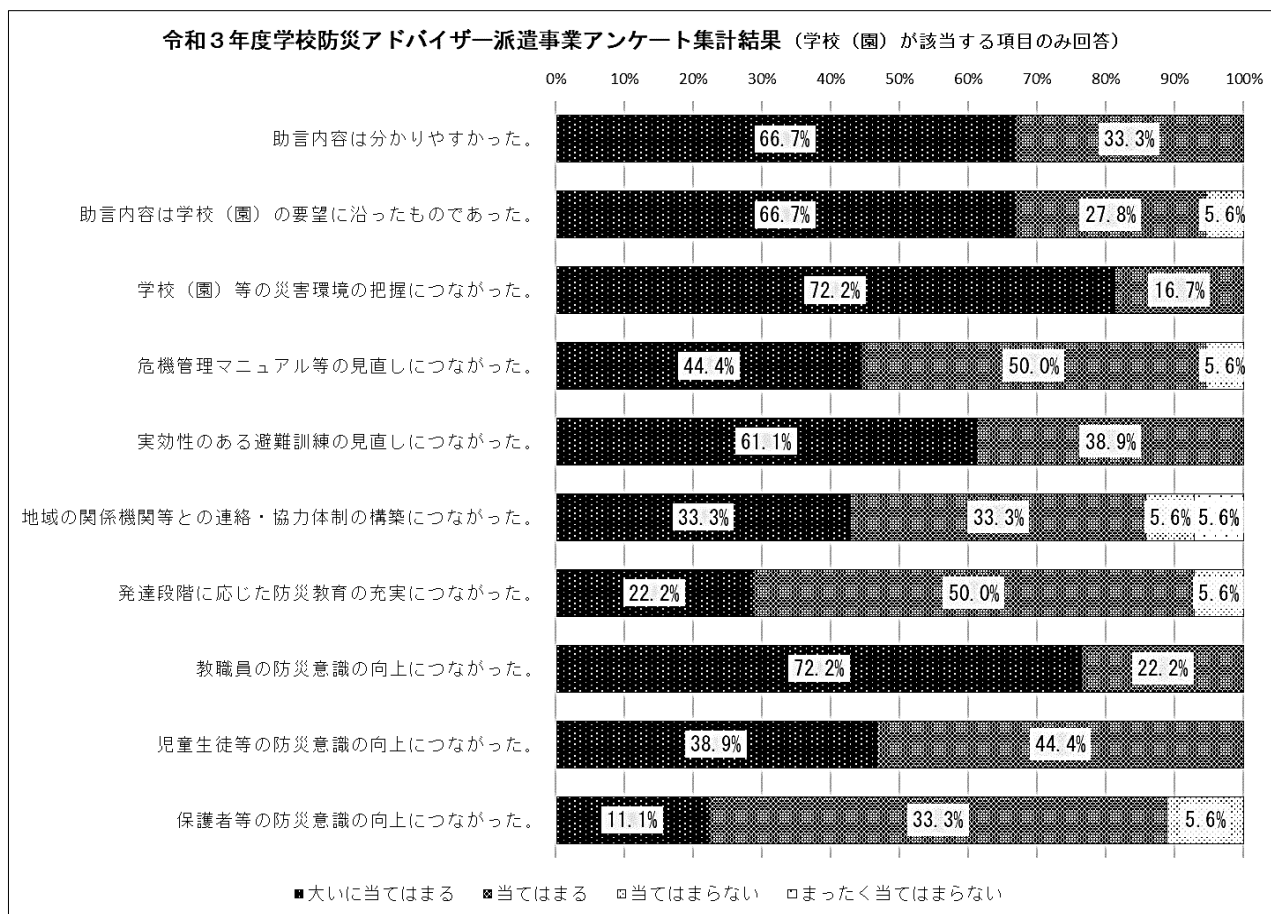


図1 アンケート調査結果一覧

事業後の各学校のアンケート調査結果（図1）を踏まえ、今年度、各学校における成果として、次の3点があげられる。

- ・ 学校（園）等の災害環境の把握
- ・ 実効性のある避難訓練の見直し
- ・ 教職員の防災意識の向上

各学校の立地状況、または校舎等の状況については、専門家の視点でないとなかなか気づくことができない部分も多くある。今年度の事業において、アドバイザーが、各学校の地域のハザードマップを用いて、どのようなリスクがあるかを分かりや



【アドバイザーとの協議の様子】

すく丁寧に説明することが多くあった。また、校（園）内を一緒に歩きながら、校内の危険箇所や起こり得るリスク等の指摘を受けた。これらの助言は、各学校の危機管理マニュアル等の重要性を改めて認識するものとなったとともに、危機管理マニュアル等の見直しの視点にもなった（図2）。

また、計画段階からアドバイザーに助言いただいた学校（園）については、地震によって飛散した窓ガラスを想定した障害物や、ロッカーを倒しての実施、さらにはケガ人や不明者が出た時を想定した訓練を実施する等、実効性のある避難訓練を行うことができた。さらに、本事業を活用した多くの学校が、事業後、教職員で共通理解を図るために振り返り等を実施した。



【障害物を設置した避難訓練】

○学校（園）等の災害環境の把握について

- ・ 学校（園）が危険な立地であることを教職員で共通理解することができた。専門家の方から、学校（園）の地形から見た避難の仕方について助言をいただき、とても参考になった。
- ・ 施設面での不備や備品管理的な問題点を指摘していただいた。施設面については、市町教育委員会に報告した。備品管理面では教職員と共通理解を図り、配置換え等を行い、減災に向けて取り組むことができた。
- ・ タオル掛けやボールラックなど移動式の用具、特にキャスターがついた家具などの対策は検討中だが、早急に改善していきたいと考えている。市担当課より窓ガラス飛散防止対策について理解を得ることができ、対策を図れることに繋がった。
- ・ 地域の災害特性である液状化について詳しく教えていただき、危険個所の再確認や地域の災害特性について、保護者にも発信していく必要性を感じた。

○実効性のある避難訓練の見直しについて

- ・ 第2次避難場所に向かう中で、周囲の様子を写真に撮ってくださり、危険箇所等を具体的に示してくださったのは分かりやすかった。
- ・ 実際の避難に向けて、非常に参考になる助言をいただき、レベルアップした次回の避難訓練（地震）計画が立てられる視点やヒントがたくさん得られた。例えば、職員と一緒に計画を立てたり、児童生徒の考えたことを実際に避難計画に取り入れたり、事前からみんなで取り組むことで意識がより高まることなど。
- ・ 避難訓練等については建物の特性を考え臨機応変な対応が必要であり、いろいろなケースを紹介していただき参考になった。

○教職員の防災意識の向上について

- ・ 市役所の方や地区の社会福祉協議会が参加してくださり、防災について、大人も初めて気付いたり、改めて考えたりしなければならないことが多くあった。
- ・ 今回ご教示いただいた知見をもとに、児童と教職員の命を守るための避難行動、また、余震に対する臨機応変な行動がとれるよう、マニュアルの再構築や日頃からの防災意識の醸成に取り組んでいきたい。

図2 各学校（園）における具体的な成果（アンケートから一部抜粋）

(3) 本事業の特色ある活用事例

① 実効性のある避難訓練

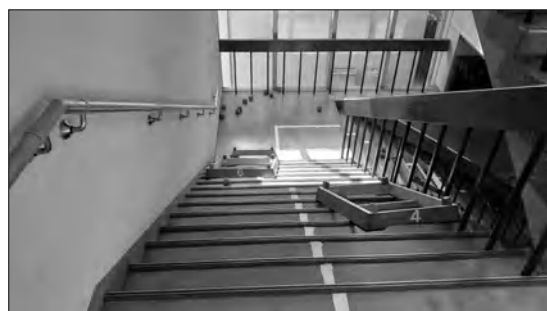
1) 琴平町立象郷小学校

- ・ 震度6弱の地震により、壁や柱の倒壊や割れたガラスの散乱、戸の故障など、環境面の負荷をかけた。
- ・ 地震により放送設備が使用できなくなることを想定して、ハンドマイクによる情報伝達を行った。
- ・ 起震車体験活動を同時に行ったことで、地震に対する心構えや身を守る行動について、児童がよく理解できていた。



2) 丸亀市立飯野小学校

- ・ 倒壊物（跳び箱）やガラス破片（赤玉）の代用で障害物を避けながら安全に避難するようにした。
- ・ 避難経路の行き止まり場所や、大けがによる避難不能になる児童を伝えず、「ブラインド」で行った。



3) 高松市立川東小学校

- ・ イレギュラーなことへの対応として、避難経路がふさがった想定で、事前計画とは違う急な避難経路の変更を行った。
- ・ 急きょケガ人が発生するという想定を行った。
- ・ トランシーバーを活用して実施した。



4) 観音寺市立大野原中学校

- ・ 緊急地震速報や火災報知機の音を活用した訓練を実施した。
- ・ 消火班の教員が水消火器の消火活動を行った。
- ・ 防火扉を閉めた状態で実施した。
- ・ 建物の倒壊（下駄箱が倒れ当初予定していた避難経路が通れない）により、誘導係がその状況から判断し、避難経路を変更して避難するようにした。
- ・ 負傷者や行方不明者を準備し、実施した。



※ 上記の内容については、生徒会が計画・立案した。



② 地域や関係機関等と連携した防災教育

1) 坂出市立東部小学校

- ・ 地域の人たち、警察、防災アドバイザー（大学職員、防災士）と一緒に、校区の通学路を歩いて、「危険な所」「安全な所」「防災施設・設備」が分かるマップを作成した。
- ・ マップは、タブレットを用いて作成した。上記の箇所を撮影したり、専門家に聞いたりしながら、チームでマップを作成した。
- ・ 気になる箇所については、各自でさらに調査するようにし、次回の調べ学習の際、活かすことができるようにした。
- ・ 地域の防災施設・設備については、事前に担当課や地域の方と連携を図り、調べ学習当日に、児童が体験できるようにした。
- ・ 調べた後は、学年で報告会を行い、児童、教職員で学んだことを共有できるようにした。



2) 高松市立大野小学校

- ・ 地域の自主防災組織の方から、校区の災害（特に洪水に関する事）について学んだ。
- ・ 水深約 30cm プールでの歩行体験、浸水時のドア開閉体験を実施し、洪水時の危険を体験できるようにした。
- ・ 洪水時は、地面が見えにくいことも想定し、水の色を濁したり、ペットボトル等を設置し、障害物を想定した状況で、探り棒を用いて確認しながら歩くようにした。
- ・ 実施2ヶ月前に、事前の打合せを行ったので、準備をする時間が十分にとれた。その後も、数回細かい打合せを行ったので、当日はスムーズに実施することができた。



(4) 今後の課題について

① 課題

1) 事業活用数について

平成24年度から始まった本事業は今年度でちょうど10年が経過する。表1は、本事業を活用した学校(園)数である。複数回活用している学校(園)もあるが、活用校数は減少傾向にある。もちろん、本事業をきっかけとして防災の専門家や地域と連携した体制ができた学校(園)もあるため、活用校数の減少傾向自体が課題であるとは言い難い。各学校(園)において、専門家や地域と連携しながら、継続的、計画的に各学校の危機管理マニュアルを見直したり、実効性のある避難訓練等を実施し、児童生徒等が自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質・能力を育成したりするためにも、より多くの学校(園)に本事業の意義や有効性を理解し、活用していただくことが今後の課題である。

表1 学校防災アドバイザー派遣事業活用校数

公立学校(園)数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
活用校数	53	40	38	21	23	25	24	23	17	17
幼・こ	16	9	10	4	4	6	8	7	4	6
小	22	23	18	10	10	10	7	5	6	9
中	3	3	1	3	2	2	0	1	2	1
高	5	3	5	3	5	3	4	5	1	1
特支	7	1	3	1	1	3	3	4	1	0

2) 各学校の危機管理マニュアル等の見直しについて

今年度の成果として、本事業を活用することで改めて学校(園)等の災害環境を把握することができた。これは本事業の意義や有効性を表すものであるが、各学校(園)における危機管理の上で、この部分は極めて重要である。各学校の危機管理マニュアル等は、一度作成して終わりではなく、教職員間で共有し、実践できるものでなければならない。さらには、専門家や地域の視点から見直していくことが求められる。今後は本事業の成果や好事例を、香川県下の学校(園)に発信し、各学校(園)の危機管理マニュアル等の見直しの参考になるように進める必要がある。

② 本事業の取組み成果の普及について

一昨年度から国立・私立学校(園)を本事業対象に含めており、本事業報告書を県内すべての学校(園)及び関係機関等へ配付するとともに、保健体育課ホームページへの掲載や研修会等における取組み照会を通して、成果の普及に努めていく。また、県下の防災担当が集まる防災教室講習会(8月)で、地域と連携した防災教育や体制ができている学校の発表や本事業における好事例の紹介などを積極的に行う。

③ 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会の主な意見

- ・ コロナ禍で各学校での対応も大変かと思いますが、個別の内容では地域との連携など、充実しているものも多く、地道な継続が大事ではないかと思う。
- ・ デジタルの活用は重要ではないか考える。
- ・ 各学校の防災（学校安全）の責任者を明確にして、リーダー教員を養成することも大事ではないかと思う。
- ・ 防災も学校安全の1つではありますが、防災はもとより、交通安全や地域防犯など、学校安全の各分野においては、地域との連携が重要であるように思う。すでに地域MAPなどの取組みも見えますが、市町の防災や地域コミュニティ部署などとの連携も必要だと感じた。
- ・ 学校現場は、このところ新たな課題があまりにも多いと感じる。教員の働き方改革を十分に意識した工夫も必要で、ビルドアップばかりではゆとりがなくなってしまう。
- ・ 避難経路に障害物を設置するとか一部通行止めをつくり、臨機応変に対応できる力も育てる取組は、多くの学校で通常行われている訓練にすぐに取り入れられるアイデアである。県の校長会等で防災に関する研修を取り入れていくことは、このようなすぐに実践に取り入れていくことができるアイデアを提供するだけでなく、そのバックに本事業があり、気軽に活用、または計画的に活用していこうとする意識を高めるものと思われる。
- ・ 成果をリーフレットやホームページ等で普及する際には、本事業を利用した学校において、カリキュラム上の位置づけ（教科、総合、学校行事）や時間数も記載していただくとありがたい。
- ・ 各学校の防災チェックシートを作成し、防災計画や危機管理マニュアル、避難所運営マニュアルの有無、また実効性のあるものになっているか等を自己点検させる。また、自己点検の結果、十分で無い市町や学校にこちらから声をかけ、活用を促すようにすればよいのでは。
- ・ 香川県として、防災に関して、どのような子どもを育てたいのか、具体的な目標を共有する必要があると思う。
- ・ 実効性のある内容の訓練が実施されている。生徒が訓練の計画段階から主体的に関わっている事例もあり、児童生徒、教職員一人一人の防災に対する意識が高まっている。
- ・ 現状は、学校によって取組の差、防災意識の差が大きいと感じている。
- ・ 地域、学校によって防災の課題は違っている。現在もそれぞれの学校に対応した助言や指導が行われているが、学校のニーズに対応しているということ、さらに学校に伝えることも必要なのかもしれない。防災は「例年通り」でなく、繰り返し見直すことが必要であることを強く発信できればと感じた。
- ・ 本事業の好事例を紹介する機会をつくることは、本事業の効果を幅広く伝えるために有効であると思われる。オンライン等も活用し、多くの教職員の防災教育への意識の向上につなげられたらよいのではないかと考える。
- ・ 学校と自治会、幼・小・中・高校のつながりが意識できる取組を進めることで、子どもたちの中に「共助」の意識が育ち、高まっていくのではないかと感じた。

II

各学校（園）の取組み

1 防災計画や危機管理マニュアル等への助言

学校（園）名	琴平町立象郷小学校
派遣内容	災害対応マニュアルや避難訓練計画等への助言
日時	令和3年9月1日（水）15：15～16：30
場所	琴平町立象郷小学校 研究会議室
参加者	教職員 17名 アドバイザー 3名（技術士会1名、防災士会2名）
内容・日程等	15：15～16：30 現職教育

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 災害対応マニュアルや避難訓練計画を策定しておき、職員に配付しておいた。
- ・ 担当で打合せしておき、当日の研修の進め方について共通理解を図った。

【中心活動】

- ・ 災害対応マニュアルや避難訓練計画の改善点について、資料を基にしながら詳しく説明していただいた。
- ・ 各分野の専門家の方々から、学校の環境面や災害に対する考え方等を丁寧に説明していただいた。

【事後活動】

- ・ アドバイザーからの助言を基に、災害対応マニュアルを改善し、教職員で共通理解を図った。
- ・ 琴平町のハザードマップから小学校やその付近の災害時の様子について、教職員で確認した。また、社会科の授業等で児童にも情報を伝えた。
- ・ どのような困難な場面が想定できるか話し合いながら、避難訓練の計画を改善していった。



【現職教育の様子①】



【現職教育の様子②】

2 今後の課題

- ・ 災害時対応マニュアルや避難訓練の見直しは進んでいるが、実際に訓練することを通して、より実践的なマニュアルや訓練に改善していかなければならない。

学校（園）名	坂出市立林田幼稚園
派遣内容	避難経路の確認・助言と職員を対象とした防災研修
日時	令和3年9月14日（火）14：00～16：00
場所	坂出市立林田幼稚園 各保育室、園庭、遊戯室等
参加者	教職員 7名 アドバイザー 3名（香川大学1名、防災士会2名）
内容・日程等	14：00～14：30 避難経路、避難場所の確認 14：30～16：00 職員研修（教職員への指導・助言）

1 取組における成果

【事前活動】

- 9月8日（水）地震、津波を想定した避難訓練を行い、第3次避難場所（林田小学校3階）まで子どもとともに避難した。訓練の振り返りを子どもと行き課題点について話し合った。また、教職員が各自の動きや分担を再確認し、課題や疑問点について話し合った。

【中心活動】

- 避難経路をアドバイザーの先生方と一緒に回りながら確認し、危険箇所や改善点の助言を頂いた。災害時の現場の状況をいろいろと想定し、避難訓練を行うことも重要である。（防火扉が閉まった暗い中での避難の経験など）
- 幼稚園だけで対応するのではなく、小学校や地域との連携、外部との協力を得ること、防災への取り組みを保護者に発信することなどご指導頂いた。
- 林田地域の災害特性について教えて頂き（液状化の可能性が高いこと、津波の到達時間など）その特性を知ったうえで防災計画を考えていく必要性を感じた。

【事後活動】

- 職員間で振り返りをし、地震発生時の対応のフローチャート作成に取り組んでいる。



【職員研修の様子①】



【職員研修の様子②】

2 今後の課題

- 園内環境を見直し、転倒や落下の可能性のあるものについて再度安全対策をする。
- マニュアルの見直しを行い、全職員で共通理解する。
- 小学校や地域の防災関係者との連携をしていく。

学校（園）名	高松市立仏生山小学校
派遣内容	『前池』『平池』等の堤防耐震状況等を踏まえた防災計画の見直しに対する助言
日時	令和3年12月21日（火）15：30～16：30
場所	高松市立仏生山小学校 校長室、校舎内、運動場
参加者	教職員 2名 アドバイザー 3名（技術士会2名、防災士会1名）
内容・日程等	15：30～16：10 防災計画の見直し・助言 16：10～16：30 校舎耐震状況等の現場確認・助言

1 取組における成果

【事前活動】

- 本校南側にはため池があり、運動場に隣接するため池堤防の高さは、本校校舎の2階以上に達している。南海トラフ巨大地震を想定した際に、地震時発生時運動場に避難する現在の防災計画では、想定外の堤防決壊時に全校児童を命の危険に曝してしまうことになりかねず、垂直避難を行うよう、防災計画の見直しを検討した。

【中心活動】

- 想定外の最悪の事態を常に念頭に置いて防災計画を見直していくことは、大切な視点である。
- 堤防決壊が懸念される場合、垂直避難は妥当な行動であると考えられる。
- 但し、耐震済校舎の損傷にも『想定外』の事態が十分予想されるので、行動前の安全確認や指示系統明確化等のマニュアル追加が必要である。
- 堤防の耐震強度については、関係機関と十分な情報交換を行うと良い。

【事後活動】

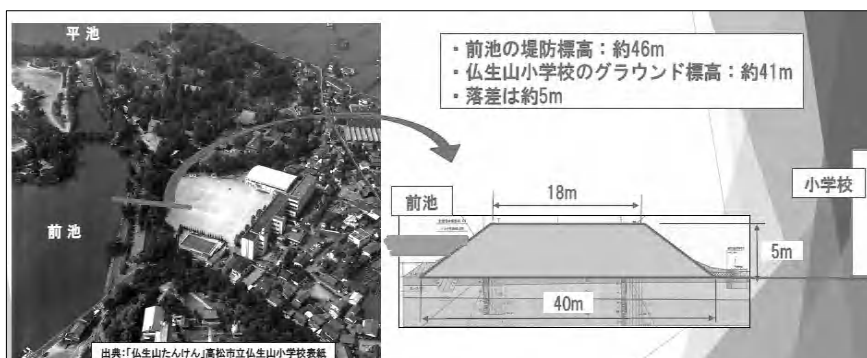
- 防災アドバイザーより、「災害リスクからみた避難行動の在り方」について、エビデンスに基づいたレクチャーがいただけた。
- 地震時は垂直避難を基本とし、避難行動の見直しに柔軟に取り組む。



【本校東側から見た『前池』と学校の位置関係】

2 今後の課題

- 防災アドバイザーや防災士の方から頂いた知見を、防災計画の再構築や防災訓練に反映し、児童の命を守ることを第一とした『安心・安全』につなげていく。
- 保護者・地域への情報発信を行い、地域の防災力の向上に寄与する。



【『前池』堤防の構造と運動場との高低差】

【事業当日の参考資料】

<p>正しく学び 受け継ぐ 「南海トラフ巨大地震」避難訓練 コロナ禍でも常に災害に備える 高松市立仏生山小学校 校長 高橋 和巳</p>	<p>コロナ禍だからこそ 仏生山小学校は！ 世界中の人々と一緒に</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『命を守る』 2 『正しく学び受け継ぐ』 3 『役立つ』 <p>全校生で力を合わせよう！</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」にぞなえて 今後30年の間に70～80%の確率で発生</p>
<p>「南海トラフ巨大地震」 M9.1 最大震度7 内閣府防災シミュレーションによると・・・</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 ゆれがおさまるまで、つくえの下から出ない</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 信じられないほどつくえはあちこちにゆれつづける、つくえの下から出ない。手をはなさない。</p>
<p>「南海トラフ巨大地震」 ゆれがおさまるまで、つくえの下から出ない</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時 ゆれがおさまっても、校舎から出ない 校舎は、『耐震構造』『液状化可能性なし』</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時 『想定外』ですが、 学校南側の『前池』堤防がくずれたら・・・</p>
<p>「南海トラフ巨大地震」 その時 『想定外』ですが、 学校南側の『前池』堤防がくずれたら・・・</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時 『想定外』ですが、 1年生は、2階や3階に避難する・・・</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時 『想定外』ですが、 1年生は、2階や3階に避難する・・・</p>
<p>「南海トラフ巨大地震」 その時</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんなにゆれても、つくえの下から出ない。 ○ つくえの『あし』から手をはなさない。 ○ こわくても、泣かない。 <p>ゆれがおさまったら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『上ぐつ』を必ずはく。(冬なら手袋も) ○ タタメットをかぶる。 ○ 落ち着いて、先生の指示をまつ。 	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 1年生は・・・ 1-1 → 中央階段から、4階音楽室へ 1-2 → 中央階段から、3階理科室へ 1-3 → 東階段から、2階第2図書室へ ※ 動ける先生方は・・・ ○ 1年生の避難経路確保と誘導・状況確認 ※ 職員室は・・・ ○ 放送機器の確認・被害状況確認
<p>「南海トラフ巨大地震」 その時</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 大地震後、火災発生の場合は・・・ ○ 恐れず、初期消火 ○ 小学校の構造上、初期消火で鎮火できる可能性が大きい。 ○ 仮に前池決壊の場合、洪水で1階部分は鎮火する。 <p>※ 想定外の揺れには、迷わず『垂直避難』</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 登下校の際に地震になったら・・・ ○ これから『防災学習』で学びましょう！ 	<p>「南海トラフ巨大地震」にぞなえて 今後30年の間に70～80%の確率で発生</p>
<p>コロナ禍だからこそ 仏生山小学校は！ 世界中の人々と一緒に</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『命を守る』 2 『正しく学び受け継ぐ』 3 『役立つ』 <p>全校生で力を合わせよう！ 誰一人取り残さない</p>	<p>「南海トラフ巨大地震」 その時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんなにゆれても、つくえの下から出ない。 ○ つくえの『あし』から手をはなさない。 ○ こわくても、泣かない。 <p>ゆれがおさまったら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『上ぐつ』を必ずはく。(冬なら手袋も) ○ タタメットをかぶる。 ○ 落ち着いて、先生の指示をまつ。 	<p>正しく学び 受け継ぐ 「安心・安全」のために 支え合って生きる仏生山の人々 普段の生活からの、ボランティア精神は、宝物になる</p>

Ⅱ 各学校（園）の取組み

2 学校と保護者、地域、関係機関等と連携した 避難訓練や防災教育等への助言

学校（園）名	琴平町立琴平小学校
派遣内容	洪水に対する実効性のある避難訓練や避難確保計画への助言
日時	令和3年7月1日（木） 9：00～10：30
場所	琴平町立琴平小学校
参加者	児童 約128名 教職員 約20名 アドバイザー 4名（技術士会2名、防災士会2名）
内容・日程等	9：00～ 避難訓練 9：20～ 校長室にて協議

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 地震から洪水というパターンが初めてだったので避難経路・手順等を周知し、各階毎に教員同士で打合せをする姿が見られた。

【中心活動】

○ アドバイザーより

- ・ テレビ台のキャスターが固定されていない(ストッパー)。できればワイヤーなどで固定する。
- ・ 廊下に亀裂がたくさん入っている。避難する場合、担任は早く移動するよりも亀裂等の危険個所を確認しながら誘導。亀裂が入っているところは床だけではなく、天井も同じようになっていることが多い。そこを避けながらの避難誘導をする。
- ・ 満濃池が決壊した場合は、金倉川が決壊しそこから水がくるというよりは、満濃池から水は直進してくる。榎井小学校方面に直進してきた水がそこより低い琴平小学校へ流れ込む感じになるので、東から琴平小学校へ来るような流れになる(20分程度)。
- ・ 満濃池が決壊した場合は、10～12時間で水が引くという想定である。その時間を校内で過ごせるように備蓄をする。
- ・ 満濃池が決壊したとして、その情報を誰かが各校へ伝えるというネットワークはない。学校としては、目視で確かめどのような措置をとるか判断するしかない。つまり地震が起こった場合は、決壊も想定してなければならぬので、すぐに運動場や体育館に避難するのではなく本部の決定後



【地震発生時の安全確保】



【3階への垂直避難訓練】



【児童の安全を本部に連絡】

に避難する。

- ・ 水だけでなく、地震後はガスにも注意しなければならない。都市ガスが琴平小学校の周りにも通っている。異常があれば四国ガスに連絡する。
- ・ 体育館が避難所になっているが、耐震工事はしているか？
- ・ 先生方も自分の身を守るように、防災頭巾をかぶる方がいい。
- ・ 廊下にある机などは室内へ(コロナ対応であることは説明した)
- ・ 入口にテレビがあるのは、避難口になるので危険。教師の机とテレビの位置を逆にした方がいいのではないか。他校では奥の方にテレビがある場合が多い。
- ・ 緊急地震速報は放送で流れない場合もある。各教員が携帯電話をもち、情報を得るようにした方が防犯上はいい。
- ・ 自治会等の自主防災組織と連携しているか。南保育所と南幼稚園だけでなく琴平小学校は避難所になっているので、ここへ周囲の住人が避難してくる。その場合も想定しておかなければならない。町の企画防災課との連携をとって計画をたてる。
- ・ 地震後に校舎が水没した場合、10時間程度そこでいなければならない。そのときの水等の確保と室内は地震の影響でガラスが割れたり、ものが倒れたりしている。それを片付け、10時間程度過ごせるようにどのように復旧させるかも想定しておく方がよい。



【洪水に関する動画を視聴】

【事後活動】

- ・ 避難訓練後、指導内容を教職員に伝えた。教職員に気付いたことを提出させ、紙面で課題を共有した。備品関係の配置等の整理をすぐに行った。

2 今後の課題

- ・ 校内での対応はすぐに改善することができた。しかし、自主防災組織との連携や近隣の幼稚園や保育所、高校等との協力体制の構築は、町の企画防災課に間に入ってもらって、町全体として取り組まなければならない課題だと考える。町の校長会を通じて働きかけ進めていきたい。

【事業当日の参考資料】

避難訓練計画

【授業中に地震がおこり満濃池の堤防が決壊した場合を想定】

実施日：令和3年7月1日（木） 9:00 ～

(1) 9:00 放送「訓練」「訓練」「これは、訓練です。」

(2) 9:01 放送に続けて ♪ 緊急地震速報 ♪ を放送室のマイクから流す。

※ 録音機をマイクに近づけて流します。

＜しばらく、「動かない」姿勢を保持＞

(3) 9:04 ◇「地震の揺れは、おさまりました。」

※ いつもなら運動場や体育館に避難するが、今回は運動場・体育館が浸水するため運動場には避難しない。

※ いつ余震が来るか分からないため、防災頭巾は着けておく。

◇「満濃池の堤防が決壊したとの情報が入りました。15分程度で水が押し寄せてきます。担任の先生の指示に従って行動してください。」

① 3階・4階でいる児童はそのまま。1階・2階でいる児童は垂直避難(3～4階に移動)

体育館・プール・運動場・通級・特別支援教室・図書館など自クラスを離れている

2・3・5・6年生は自分の教室に戻る。

② 1年生は西階段を使い3階少人数教室へ移動する。4年生は東階段を使い4階少人数教室へ避難する(齋藤さんは4階まで登るのが難しい場合は、石川先生が付き添い3階、6年もしくは1年が避難している3階少人数、2年教室に避難してもいい。その場合は松本先生に連絡を)。3階図工室は保育所、2組は幼稚園が避難してくる予定(訓練時はなし)。

③ 各担任は避難終了後、人員点呼を行い本部(視聴覚室)に報告。本部は職員室が水没しているため視聴覚室に移っている。担任1名で児童を見ている場合は内線を使い報告。2名以上いる場合は、1名が本部へ報告に来る。

(4) 9:15頃 全児童の安全確認が終了した時点で

◇「これで避難訓練は終わります。」「避難したクラスは自分のクラスに戻りましょう」

◇「教室に戻ったら水害についてのビデオを見ましょう」

※ 1年生は、教室にもどったら地震が起こったときに体育館・運動場へ避難する方法も体験しておきましょう。

	教職員	児童
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・落下物、転倒物、ガラスの飛散等から身を守るよう指示する。 ・出口を確保する。 ★的確な指示 「頭部の保護」「机の下にもぐる」「机の脚を持つ」(シェイクアウトの動作化を活かす) ・使用している火気の消火、出口の確保をする。(廊下側の扉を開ける。) ・揺れが避難する場合、静かに落ち着いて行動させる。 	<p>【教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にもぐり、落下物等から身を守る。 ・あわてて外へ飛び出さない。窓や壁際から離れる。 <p>【廊下・階段】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ中央で伏せ、蛍光灯やガラス等の落下物から身を守る。 <p>【体育館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央部に集まり、頭部を保護し、姿勢を低くする。 <p>【運動場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落下物や倒壊の危険性のある物から離れ、運動場中央に避難する。 <p>《揺れがおさまったら》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指示をよく聞き、勝手な行動をとらない。

まず、自分の身体を守る行動

ステップ1:「姿勢を低くする」

→ 地震の揺れの影響を受けにくい工夫

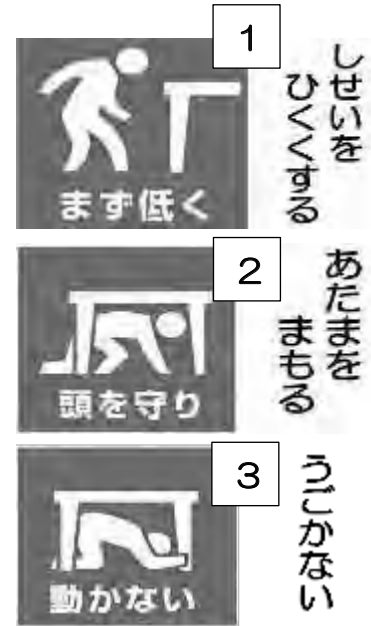
ステップ2:「頭を守る」

→ 体の中枢をまず守る工夫

ステップ3:「動かない」(ダンゴムシのポーズ)

→ 本震の後の余震があることも念頭に置きながら、本震の揺れがおさまるまで動かない姿勢の保持(机ごと動くことがあります。

しかし、頭上には常に落下物があることを想定して、頭をしっかり守りましょう。)



これを自分の命を守る基本の行動として、あらゆるパターンを想定しておくことが大事である。しかし、想定外は、必ず有ることを念頭に！ 防災対策と減災対策の両輪が大事！

香川県地震発生時の危機管理マニュアルより

【水害についてのビデオ】

共有フォルダ → 防災ビデオ → ○年

名前	更新日時	種類	サイズ
suigai_digest	2021/06/14 19:52	圧縮(zip形式)フォルダー	358,030 KB
suigai01	2021/06/14 19:53	圧縮(zip形式)フォルダー	247,257 KB
suigai02	2021/06/14 19:54	圧縮(zip形式)フォルダー	529,757 KB
suigai03	2021/06/14 19:54	圧縮(zip形式)フォルダー	288,263 KB

○ Suigai_digest…約8分

○ Suigai01～03…約24分

- ※ 各学年の発達段階に応じて解説を入れながら見させてください。
 ダイジェスト版は水害が起こったときにどうするか？の解答的な内容です。
 水害01～03は水害に対して備えていなかったらどうなるか？から入って解答編まで含まれています。

学校（園）名	坂出市立加茂幼稚園
派遣内容	避難訓練に対する助言と職員を対象とした研修
日時	令和3年7月2日（金）13：20～15：00
場所	坂出市立加茂幼稚園 各保育室、園庭、遊戯室
参加者	幼児 6名 教職員 約6名 保護者 6名 アドバイザー 3名（技術士会1名、防災士会2名）
内容・日程等	13：20～14：00 避難訓練及び引き渡し訓練（園児、保護者参加） 14：00～15：00 職員研修（職員参加）

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 避難訓練の計画段階から職員間で課題や疑問点を整理して、様々なケースを確認しあった。

【中心活動】

- ・ 様々な想定を行っていたが、園児は落ち着いて避難行動ができた。今後は緊急地震速報のアプリ利用や物を倒しておくなど非常時の状態を体験できる避難訓練の方法を助言いただいた。
- ・ 地震のときは情報をとることが第一。余震が続かない場合には引き渡しは不要である。急な豪雨では早めの引き渡しが必要になることもある。
- ・ 幼稚園だけで備えるのではなく、外部の協力を得ることが必要。自主防災組織との連携や、地域の避難場所である隣接の小学校体育館へ行くことよいと助言を受けた。

【事後活動】

- ・ 避難訓練後、保護者アンケートを実施した。「もしもに備えて家庭でも話し合いたい」「道路が混み合うことや自宅からのかかる時間など考えるきっかけになった」などの意見をいただいた。保護者の意見を職員間で共有し、園児と振り返りの事後指導を行った。



【職員研修の様子①】



【職員研修の様子】

2 今後の課題

- ・ 園内の環境を見直し、転倒や落下の危険があるもの（タオル掛け、ボールラックなど）について安全対策を実施・検討する。
- ・ マニュアルの見直しを行うとともに、地域の防災関係者との連携をしていく。

【事業当日の参考資料】

第3回 防災避難訓練（地震：防災アドバイザー）実施計画（案）

- 1 日時 令和3年7月2日(金) 13:20~15:00
- 2 ねらい ○ 地震発生の放送を聞き、安全に避難する。
○ 落ち着いて避難場所で待機し、保護者と引き渡し訓練を行う。
- 3 設定 保育室で保育中
- 4 避難場所 各保育室(机の下) → 幼稚園園庭
- 5 展開

・ 事前に各職員の質問を集約し、項目ごとに整理しておく。

	幼児の活動(動き)	経験させたい内容	指導の要点及び配慮
事前	○ 地震について話し合う。 ・ 紙芝居、ビデオなど視聴覚教材を通して ○ 安全な避難の仕方について話し合う。	④・⑤ これまでの経験を思い出し、どうすればよいか考える。 ③ 地震の怖さに気づき、安全な避難の方法を知る。 ※「お・は・し・も」の約束 押さない、走らない、しゃべらない、もどらない	○ これまでの避難訓練等の経験を思い出させ、どうすればよいか子どもと一緒に考えていく。 ○ 不安になると予想される幼児には、担任が担当になったり、教職員が連携してみたりする。 ○ 避難袋等の点検をしておく。(クラス名簿・地区別園児名簿など)
本時	① 保育室で避難する。 ・ 合図を聞く…放送 ・ 友達と一緒に机の下に潜る。 ② 園庭に移動する。 ・ 合図を聞く…放送 ・ 先生と一緒にすばやく安全に避難する。	震度6の地震がおこり、揺れています。近くにある机の下に潜りましょう。 ○ 緊急放送の合図に耳を聞くことの大切さに気づかせる。 地震の揺れはおさまりまの先生と一緒に園庭に集まる。 ○ 安全な避難の仕方を知り、保護者に迎えの依頼をする。	○ 放送をよく聞かせ、近くにある
事後	○ 翌週、各クラスで安全な避難の仕方について話し合う。 ○ 降園後、ランチルームで学校防災アドバイザーと話し合う。	○ 自分のクラスの友だちに避難できたかどうか確認する。 ○ 防災アドバイザーの話を聞く。	

- 6 評価 ○ 避難の仕方を知り、指示に従い、スムーズに避難する。
- 教師の指示・援助、チーム体制、引き渡しのスムーズさ

【園児保管用】 緊急時の『園児引き渡しカード』 坂出市立加茂幼稚園

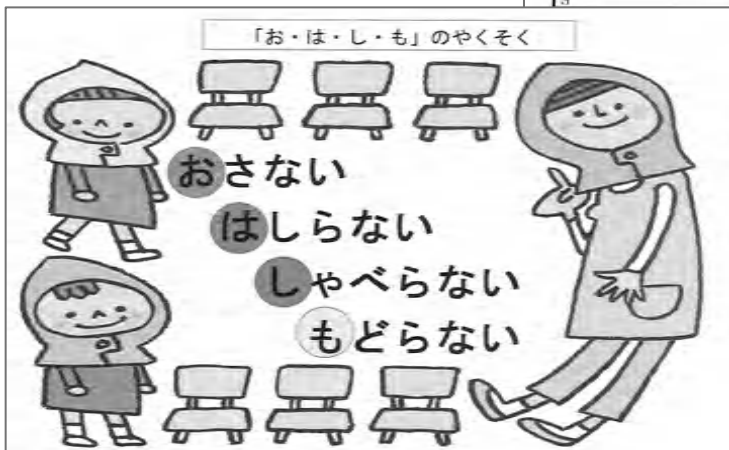
(ふりがな)	園児名	(ふりがな)	保護者名	園位	緊急時の連絡先	備考
	本園在園の兄弟姉妹 加茂小学校在籍の兄弟姉妹 名前 (年 組)			1番		
				2番		
	園に引き取りに来る人	園児との関係	連絡先	R3		
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					

① 保護者欄の下の「緊急時の連絡先」には、携帯・会社・祖父祖母など、必ず連絡のとれる番号を記入の上、備考欄にその旨を記入してください。また、連絡先が変更になった場合は、速やかに担任にお知らせ下さい。
② 「園に引き取りに来る人」の欄には可能性のある人を全て記入ください。実際には、園児との関係を確認の上、間違いないようにしてください。

【保護者保管用】 緊急時の『園児引き渡しカード』 坂出市立加茂幼稚園

(ふりがな)	園児名	(ふりがな)	保護者名	園位	緊急時の連絡先	備考
	本園在園の兄弟姉妹 加茂小学校在籍の兄弟姉妹 名前 (年 組)			1番		
				2番		
	園に引き取りに来る人	園児との関係	連絡先	R3		
	1					
	2					
	3					

① 保護者欄の下の「緊急時の連絡先」には、携帯・会社・祖父祖母など、必ず連絡のとれる番号を記入の上、備考欄にその旨を記入してください。また、連絡先が変更になった場合は、速やかに担任にお知らせ下さい。
② 「園に引き取りに来る人」の欄には可能性のある人を全て記入ください。実際には、園児との関係を確認の上、間違いないようにしてください。



学校（園）名	東かがわ市立丹生こども園
派遣内容	避難訓練（地震による池の決壊）及び危機管理マニュアルに対する指導助言
日時	令和3年7月15日（木）10：00～11：30
場所	東かがわ市立丹生こども園 各保育室、南駐車場、遊戯室
参加者	幼児 69名（6クラス） 教職員 20名 東かがわ市危機管理課 2名 東かがわ市子育て支援課 1名 アドバイザー 3名（香川大学1名、防災士会2名）
内容・日程等	10：00～10：15 避難訓練 10：15～11：30 避難訓練及び危機管理マニュアルに対する指導助言

1 取組における成果

- ・ 地震の避難訓練では、0～5歳児が各クラスでスムーズに机の下に入り、身を守る行動をとった後、防災ずきんを被って避難できた。改めて、日頃の避難訓練の積み重ねの大切さを感じた。
- ・ 地震の揺れにより、棚の転倒や窓ガラスの破損等が起こる。園児の安全確保や避難の妨げとならないよう、棚等の固定、ガラスの散乱防止対応が必要である。できることから改善を図りたい。
- ・ 園は広域避難場所となっている。園として、まずは園児の安全確保を行い、保護者へ園児引き渡しを行うことを優先していくが、避難所開設の際、混乱を防ぐため、園児関係者と一般の方との流れを考えておく必要がある。園内で職員と話し合う機会をもちたい。
- ・ 市の関係課からも本時の派遣事業に参加してくださり、園の危機管理対応について話し合うよい機会となった。避難所運営マニュアルを頂いたり、窓ガラス飛散防止対策を話し合ったりして、改善への一歩前進に繋がった。避難訓練の計画段階から職員間で課題や疑問点を整理して、様々なケースを確認し合った。



【遊戯室舞台上に避難した様子】



【アドバイザーより園児へ講評】



【関係機関を交えての話し合い】

2 今後の課題

- ・ 棚等の転倒防止、窓ガラス飛散防止対策を進めていく。
- ・ 園児を引き渡しの際、園児関係者と一般の方（避難に来られた方）との流れを検討する。

学校（園）名	坂出市立東部小学校
派遣内容	防災マップをもとにした地域点検ならびに調べ学習
日時	令和3年9月28日（火）13：40～15：20
場所	坂出市立東部小学校区 及び 体育館
参加者	児童 59名 教職員 6名 坂出警察署 2名 東部地区社会福祉協議会 25名 アドバイザー 4名（香川大学2名、防災士会2名）
内容・日程等	13：40～15：00 校区内通学路における調べ学習 15：00～15：10 調べたことについて発表、質問 15：10～15：20 各関係機関よりご指導

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 昨年まで4年生が作成してきた防災マップをもとに、実際に歩いて調査する箇所について、「危険な所」「安全な所」「防災施設・設備」をマップ上にシールで色分けして整理した。その中で、特に調べたい内容を明確にした。
- ・ 調べ学習を効率よく進めるために、地図係、メモ係、カメラ係等、役割分担をして、準備をした。（4コース）

【中心活動】

- ・ 校区へ調査に行く前に、お越しいただいた学校防災アドバイザーの方々に、これまで学習したことや今回の学習のめあてなどを伝えた。
- ・ 教員と学校防災アドバイザーが各コースに分かれ、児童の調べ学習に同行した。教員は事前に児童が調べたい内容を把握し、時間内で特に焦点化したい箇所を中心に調べた。その際、地域の自主防災組織の方が詳しく説明をしてくださり、施設を見るだけでなく、設置の理由や使用方法等、施設の方に声をかけていただきながら、詳しく調べることができた。
- ・ 時間内に調べたい箇所をすべて回ることができなかったので、次回の調べ学習の時間に、調べられなかった箇所に行くことになった。

<学校防災アドバイザーからの指導内容>

- ① 災害時に自分の町で、過去に起こった災害を知っておくこと。
- ② 災害時の町の歩き方は、360度全体を見回して逃げること。



【施設を訪問してインタビュー】



【地域の防災倉庫の見学】

- ③ 防災グッズや設備をどのように使うか、実際に手に取って見て、使い方をマスターしていくこと。
- ④ 災害時の行動について、家族と話し合っておくこと。

【事後活動】

- ・ 学んだことを、実際の災害時に活かすことができる学習内容を精選する。
- ・ 学習の成果をいつ、どこへ、どのように広げていけばよいか、検討する。



【調べ学習の報告会】

2 今後の課題

- ・ 校内環境を見直し、転倒や落下の可能性のあるものについて再度安全対策をする。
- ・ マニュアルの見直しを行い、全職員で共通理解する。
- ・ 小学校や地域の防災関係者との連携をしていく。

防災学習 () コース4年() 組 名前()

これからの予定 県の学校防災アドバイザー、地域の自主防災組織の方と一緒に

①回目 9月28日(火) 5、6校時 13:30~15:20
 13:30~13:40 体育館に集合、予定の確認
 13:40~15:00 各コースごとの4グループに分かれて校区内探訪
 危険箇所、安全な通路・避難場所、防災や防犯に役立つ施設・設備等の確認
 15:00~15:20 体育館で、調べてきたことの報告
 防災アドバイザーの方への質問・今後のアドバイス

↓

調べたことを(歩いたことのない人にも分かるように)グループごとにまとめておく。

↓

②回目 10月12日(火) 5、6校時 13:30~15:20
 グループごとに、まとめたものを見てもらう。
 再度、くわしく調べたい所にしぼって、コース・グループごとに調べに行く。
 実際の使用方法などを教えてもらい、できれば体験させてもらう。

↓

調べたことを家の人や全校生、地域の人にも伝えられるようにまとめ、発信する。

9月21日(火)にすること

☆ グループごとに、これまでに作成してきた防災マップを参考にして、9月28日には、校区内、コース内のどこを実際に歩き、調査してくるのか決める。
 (歩くコース、見てくること、誰が何を見るのかの分担を決める。)

9月14日(火)にみんなから出た案

①危険な所(赤) → 地震で倒壊しそう、津波で浸水しそう、空き家、人通りが少ない用水路・溝(水の流れ)、

②安全な所(青) → 避難場所、公共施設、高い建物、休憩所、子どもSOS、AED 消防署・消防団、火災受信機、防犯カメラ、SOSボタン

③防災施設・設備 → 海拔表示(水深0m)、防火水槽、消火栓、標識、防災倉庫、防災ベンチ、かまどベンチ、災害用トイレ、公衆電話、災害時救援対応機、緊急飲料水、

学校（園）名	坂出市立東部小学校
派遣内容	防災マップをもとにした地域点検ならびに調べ学習
日時	令和3年10月12日（火） 13：20～15：20
場所	坂出市立東部小学校区 及び 体育館
参加者	児童 59名 教職員 5名 坂出市危機管理室 3名 坂出市共働課 3名 東部地区社会福祉協議会 30名 アドバイザー 4名（香川大学2名、防災士会2名）
内容・日程等	13：20～15：00 校区内通学路における調べ学習 15：00～15：10 調べたことについて発表、質問 15：10～15：20 各関係機関よりご指導

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 教員は事前に地区の社会福祉協議会と連絡を取り、前回の調べ学習の続きと実際に訪問したり、体験したりできる施設についてアドバイスをいただいた。その内容をもとに、体験学習が中心となるように、調べ学習のコースを再検討した。

【中心活動】

- ・ 前回、校区で調査したことをもとに、学校防災アドバイザーの方々に、今回の学習のめあてなどを伝えた。
- ・ 今回も教員と学校防災アドバイザーが各コースに分かれ、児童の調べ学習に同行した。実際に体験や見学ができる箇所には、地区の社会福祉協議会の方や市役所の方が会場を設置したり、待機したりしていただいた。コースごとに時間をずらして会場に行き、体験や見学をすることができた。
- ・ 学校防災アドバイザーの方からは、地域と連携をとった防災学習は非常に有効であると評価していただいたことから、今後も継続して実施しようと考えている。また、今回の体験活動は、災害時や防災時において、どのような役割を果たすのか、どのように使用するのか、具体的に役立てることができるようにするためにはとても重要であり、学んだ知識が実際に役立つことに効果的であると言っていた。



【市担架による運搬体験】



【市防災倉庫（発電機）の見学】

【事後活動】

- ・ 実際に災害が起こったときに、避難場所を決めたり、自分の家から避難場所までの避難経路を確認したりするなど、自分ができることについて考え、まとめておく。

2 今後の課題

- ・ 学んだことを、防災デジタルマップにどのようにまとめるか。
- ・ 防災マップをはじめとした学習発表の発信内容と方法を検討する。



【ベンチかまどを使った実演】

学校（園）名	琴平町立象郷小学校
派遣内容	より実践的な内容で実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和3年9月29日（水）10：00～11：00
場所	琴平町立象郷小学校 運動場、家庭科室、図書室、研究会議室
参加者	児童 112名 教職員 19名 消防署 5名 アドバイザー 4名（技術士会2名、防災士会2名）
内容・日程等	10：00～11：00 避難訓練

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 避難訓練の計画段階から学校担当者と事業担当者が相談し、より実践的な避難訓練をめざした内容を考え、震度6弱を想定した、参加者に負荷のかかるものにした。
- ・ 職員会議で周知時に教員同士で話し合う時間を設けた。会議後から避難訓練まで、様々なケースを確認し合い、職員の意識が高まっている姿が見られた。



【崩落した壁を想定した障害物】

【中心活動】

- ・ 震度6弱の地震により、壁や柱の倒壊や割れたガラスの散乱、戸の故障など、環境面の負荷をかけたことにより、児童が非日常の雰囲気の中で訓練を真剣に行う様子が見られた。
- ・ 地震により放送設備が使えなくなることを想定して、ハンドマイクによる情報伝達を行った。情報がスムーズに伝わったところと伝わらなかったところがあり、情報伝達の大切さが明確になった。
- ・ 起震車体験活動を同時に行ったことで、地震に対する心構えや身を守る行動について、児童がよく理解できていた。



【倒壊した柱等を想定した障害物】



【起震車体験活動】



【避難する児童の様子】



【アドバイザーによる講評】

【事後活動】

- ・ 避難訓練後、教職員に気付いたことを提出させ、紙面で成果と課題を共有した。その内容を踏まえ、避難行動をとる際の留意点を見童と話し合った。今後他の災害（不審者を含む）についての避難訓練についても同様に改善を行っていくこととした。
- ・ 消防署や町の企画防災課とも連携して、より共働体制を強化していけるように継続して話していくこととした。

避難訓練振り返り

氏名 ()

本日の避難訓練を通して、発見や課題、気づきなどを記入し、紙面で提出していただき、特に自分の役割について詳しくお聴きします。締め切り10月11日(金)

成果	<p>子どもたちの避難行動がスムーズに進んだこと。</p> <p>避難経路の確認が、避難のスムーズな進行に繋がったこと。</p> <p>避難時の服装や靴、帽子、リュックの整理がスムーズに進んだこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がったこと。</p>
課題	<p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p> <p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p>
気づいたこと	<p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p> <p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p>

避難訓練振り返り

氏名 ()

本日の避難訓練を通して、発見や課題、気づきなどを記入し、紙面で提出していただき、特に自分の役割について詳しくお聴きします。締め切り10月11日(金)

成果	<p>実際の震災と想定1の避難経路から、政府の避難指示が緊急事態宣言で変更されたこと。</p> <p>避難経路の確保や避難のスムーズな進行に繋がったこと。</p> <p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進んだこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がったこと。</p>
課題	<p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p> <p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p>
気づいたこと	<p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p> <p>避難時の服装や靴の整理がスムーズに進まなかったこと。</p> <p>避難時の声かけや声援が、避難のスムーズな進行に繋がらなかったこと。</p>

【教員の振り返りカード】

2 今後の課題

- ・ 職員の連携の在り方等、見つかった成果や課題をポートフォリオして、改善していくとともに、職員が変わっても伝えられるようにしておくこと。

学校（園）名	香川県立多度津高等学校
派遣内容	防災講話
日時	令和3年10月8日（金） 8：50～9：40
場所	香川県立多度津高等学校 各ホームルーム
参加者	生徒 約600名 教職員 約80名 アドバイザー 1名（香川大学1名）
内容・日程等	8：50～9：40 防災講話 「災害状況再現・対応能力訓練システムから見る避難訓練における課題」 高橋 亨輔（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携機構） ※校内映像システムを使って全校生徒・職員への防災講話

1 取組における成果

- ・ 最近の大きな災害（東日本大震災など）を事例にあげ、災害種別ごとにその脅威と、それに対する避難行動を認識する。これにより災害に対するイメージ力をアップさせ、防災対応力を向上させるための訓練の紹介があり、防災、減災の視点から生徒・職員ともに収穫のあった講演内容でした。

2 今後の課題

- ・ 従来の防災訓練ではシナリオに基づいて、事前に何が起こるかかわかった状況で実施されているが、実際には情報が入ってこない、想定外のことが起きるなど、様々な事態を想定した事前訓練が必要である。例えば、避難訓練では避難経路に障害物を置くなど実際の被災現場を再現することや、講演の中で紹介があった研究機構の訓練システムを体験することなどを検討している。



【情報処理教室からの講演放送】



【各HR教室での視聴】

学校（園）名	高松市立大野小学校
派遣内容	防災授業についての指導
日時	令和3年10月20日（水）8：10～11：35
場所	高松市立大野小学校
参加者	児童 約82名 教職員 4名 消防署 4名 自治防災会 4名 アドバイザー 3名（香川大学2名、防災士会1名）
内容・日程等	8：10～11：35 防災授業 ・水の危険性に関するDVD視聴 ・水深30cm歩行体験活動、ドア開閉体験活動

1 取組における成果

- ・ 8月末、実施2ヶ月前に、第1回目の事前の打ち合わせを行ったので、準備をする時間が十分にとれた、その後も、数回細かい打ち合わせを行ったので、当日はスムーズに実施できた。
- ・ 三年生児童を対象にした「水の危険性を理解する」
 - ① 座学（国土交通省作成：「洪水から身を守るには」、大野校区自主防災会作成「水から身を守る」ビデオ視聴学習）
 - ② 水深約30cm プールでの歩行&普段と30cm浸水時のドアの開閉体験。
- ・ 洪水時に危険なところ、高い所で安全なところ等、想像することが大事。ハザードマップに載っていない危険性が、地域にはいろいろある。生活しているところにはちょっとした危険性がある。そのような個所には近寄らぬように、家族と一緒に考えておくとよい。
- ・ 洪水時の避難時には、水の下にはガラス片やくぼみがあることを想像しつつ、探り棒で確認しつつ歩く。普段には何もない所で、マンホールのふたが外れている場合も有る。大事なことは、早めに避難する事。今の大人には洪水避難体験が無い。いざという時には、皆さんが大人の避難のきっかけになるように発言・行動してほしい。



【洪水の際ドアが開くかの体験】



【洪水の際、水の中を歩く体験】

2 今後の課題

- ・ 講師の方は、危険性を話すのみではなく、児童から、その危険性を引き出すように話しかけると良い。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策によって、防災授業の形態を工夫する必要がある。

【事業当日の参考資料】

高松市立大野小学校 3年団 防災学習指導案

- 1 日時 令和3年10月20日（水） 1～4校時
- 2 場所 3年各教室（3赤3校時、3白1校時、3青2校時）、
プール（3赤4校時、3白2校時、3青3校時）
- 3 指導者 地域関係者、学校（各担任）
- 4 参加児童 3赤（28名）、3白（27名）、3青（27名）
- 5 指導内容 水から身を守る

【3赤3校時、3白1校時、3青2校時】 各教室

学 習 活 動	指導上の留意点等	準備物
1 授業説明、自治防災会挨拶 （5分）	○担任より説明。	電子黒板 航空写真
2 DVDを視聴する。 （10分）		
3 自治防災会からPPを使った 説明（20分）		
4 まとめ （10分）	○担任が授業のまとめをする。	

【3赤4校時、3白2校時、3青3校時】 プール踊り場

学 習 活 動	指導上の留意点等	準備物
0 児童着替え時間前後確保		体操服 入水用替え靴スニーカー 着替え下着、タオル
1 ドアを一人で開閉	○児童の先導指導は担任 ○自治防災会は周辺準備とサポート（安全確保）	水密ドア開閉セット
2 探り棒を携えて一人で歩く。	○はじめに自治防災会が模擬体験 ○担任の指導により順次体験する。	大型ビニールプール 傘（探り棒代わり）
4 まとめをする。		

学校（園）名	高松市立大野小学校
派遣内容	防災授業についての指導
日時	令和3年10月22日（金）8：10～11：35
場所	高松市立大野小学校
参加者	児童 約82名 教職員 4名 消防署 4名 自治防災会 4名 アドバイザー 3名（香川大学2名、防災士会1名）
内容・日程等	8：10～11：35 防災授業 ・水の危険性に関するDVD視聴 ・水深30cm歩行体験活動、ドア開閉体験活動

1 取組における成果

- ・ 8月末、実施2ヶ月前に、第1回目の事前の打ち合わせを行ったので、準備をする時間が十分にとれた、その後も、数回細かい打ち合わせを行ったので、当日はスムーズに実施できた。

- ・ 6年生児童を対象にした「応急手当等 体験活動」

① 応急手当

（止血方法、三角巾の使い方）

② 消火器訓練

（消火器使用手順、段ボール間仕切りベット）

- ・ 運動場を使っでの体験活動であったので、感染症対策がとれ、十分に活動できた。
- ・ 消火器を実際にさわることができ、操作の仕方がよく分かった。
- ・ 段ボールを組み立てられる経験は、避難所で暮らすことになった場合は、子どもたちも積極的に手伝うことにつながる。
- ・ 身近にある物で応急手当をする活動は、いろいろな物が用途に応じた材料になる思考を広げられる学習となった。



【消火器訓練】

2 今後の課題

- ・ 今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、6年生で計画していた炊き出し配給体験はできなかった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策によって、防災授業の形態を工夫する必要がある。



【段ボール間仕切りベット体験】

【事業当日の参考資料】

高松市立大野小学校 6年団 防災学習指導案

- 1 日時 令和3年10月22日（金） 1・2校時
- 2 場所 3体育館（1・2校時）、運動場（1・2校時）
- 3 指導者 地域関係者、学校（各担任）
- 4 参加児童 6赤（24名）、6白（24名）、6青（24名）
- 5 指導内容 親子で応急手当を学ぼう、防災体験活動しよう

【赤組・白組（1/2）1校時、青組・白組（1/2）2校時】

学 習 活 動	指導上の留意点等	準備物
1 親子で応急手当を学ぶ。	○担任よりあいさつ。 ○止血方法を学ぶ。	プロジェクター パソコン マイク2本 机、いす タオル、 ハンカチ ガーゼ
2 新しい三角巾の説明を聞く。	○三角巾の使い方を学ぶ。 三角巾の代わり （ごみ袋、風呂敷、レジ袋等） 添え木になる物 （木、竹、サランラップの心棒、傘等） 包帯になる物 （はちまき、ストッキング、パンスト、 養生テープ、タオル等）	包帯 各自 はさみ

【3赤4校時、3白2校時、3青3校時】 プール踊り場

学 習 活 動	指導上の留意点等	準備物
1 消火訓練をする。	○消化器の種類 ○消化器の使用手順	マイク （首から提げるもの） ビニル手袋
2 間仕切りを制作する。	○4人で簡易トイレを製作する。	段ボール箱 ビニル袋 新聞紙
3 段ボール間仕切り、段ボール ベッドを体験する。	○展示品を活用して、体験する。	展示品
4 まとめをする。	○感想を述べ合う。	

学校（園）名	高松市立三溪幼稚園
派遣内容	避難訓練についての指導助言
日時	令和3年10月22日（金）9：30～11：30
場所	高松市立三溪幼稚園
参加者	幼児 37名 教職員 6名 アドバイザー 4名（香川大学2名、防災士会2名）
内容・日程等	9：45～10：15 避難訓練・園児への指導 10：30～11：30 避難訓練における指導と課題

1 取組における成果

- ・ 近隣のため池が地震による決壊を想定して、アドバイザーの方と一緒に第2次避難場所に向かった。避難所に行くまでに、電柱や道路の倒壊による通行困難、避難場所までの距離等、危険箇所や問題点があることを指導していただいた。
- ・ ため池決壊時の氾濫水到達時間が園まで3分という中で、園児を安全に避難させる方法として、屋上への避難も想定しておく。また、避難場所を複数考えておくことも必要だということを改めて感じた。
- ・ 災害時に協力を得るためにも、地域の自主防災組織や、コミュニティーセンター、池の管理に関わっている土地改良区等との連携を日頃から行うことの大切さを指導していただいた。
- ・ 災害時、施設内での避難経路の確保が重要になってくる。日頃から物の配置や転倒防止、落下防止についても安全確認をする。また、施設のことについては行政への働きかけが必要との指導をいただいた。
- ・ 避難の際には職員の伝達手段としてトランシーバーが有効であることや、園児の防災頭巾や職員のヘルメットの必要性についてもご指導をいただいた。
- ・ 保育者が落ち着いて行動することが大事であり、不安な表情は子どもに伝わり、速やかに避難できないことにつながるとの指導を受け、再度、職員間で確認をした。



【避難訓練（第2次避難場所へ）】



【アドバイザーの方からの指導】



【訓練後の指導助言】

2 今後の課題

- ・ 第2次避難場所や避難経路の見直しとともに、複数想定しておくことで、状況によって対応できるようにしていきたい。
- ・ 危機管理マニュアルに、職員誰が見ても分かり、動けるようなフローチャートを作成していきたい。
- ・ 園だけの避難訓練でなく、地域と連携した避難訓練を行っていくにはどのようにしたらいいのか、考えていきたい。
- ・ 保護者の防災意識を高めるための工夫を考え、働きかけていきたい。

【当日の資料】

令和3年10月22日(金)		避難訓練(地震・三郎池決壊→二次避難)	
ねらい	3歳 … 地震が起きた時の避難の仕方や二次避難についてを知る。 4・5歳… 地震の際の避難の仕方が分かり、保育者の指示に従って避難する。 二次避難場所が分かり、友達や異年齢児と一緒に、保育者の指示に応じて、安全に避難する。		
環境構成準備	＊子どもに当日の事前予告をしない。(前日に流れを説明しておく) ＊二次避難先へは、水筒を持って移動する。 ＊雨天時は5歳児のみ傘をさして、二次避難を行う。 ○3歳児… 前日に訓練について話しておき、練習であることを伝える。当日は、子どもが安心して参加できるように声を掛けながら、誘導する。二次避難する場合は、いつもの年長児のペアと一緒に手をつなぎ、安心できるようにする。 ○4歳児… 地震発生時の安全行動や避難の仕方を子どもと事前に確認し、避難方法などを思い出し、保育者の指示に従って安全に避難できるようにする。二次避難の時は、クラス内でペアになるよう声を掛ける。支援の必要な子どもが安心して避難できるよう、声を掛けたり、寄り添ったりしながら関わる。 ○5歳児… 放送を聞き、自分で考えたり、保育者の指示に従ったりしながら避難できるように言葉を掛ける。二次避難時は、ペアの年少児と手をつなぐよう声を掛け、相手を気遣いながら避難しようとする姿を認めながら一緒に避難する。雨の時は、傘の持ち方なども個別に声を掛けながら、安全に避難できるよう誘導する。		
避難経路	各保育室～園庭		
時間	子どもの活動	環境構成(★)と援助のポイント(☆)	
9:30	○地震の放送を聞く。 ○保育者の指示に従って身を守る。 ・机の下など頭を守れそうなところに避難する。机がなければ中央に集まる。	☆ 放送(園長)が始まった際、遊んでいる子どもに中止するよう伝え、気持ちを落ち着かせて静かに聞くように言葉を掛ける。 □園長…「地震が起きました。先生の話をよく聞いて揺れが止まるまで、頭を守って待ちましょう」(1分間…安全行動) ☆ 子どもに落ち着いて避難するよう知らせ、机の下など危険な物が近くにない場所に誘導する。また、トイレなどに子どもが残っていないか、職員間で連携を取りながら全員避難できるようにする。 ・各保育室…○○、○○、○○ ・園庭 …○○ ・トイレ …○○ ホール …○○ ・怪我などの対応…○○ ★ 全保育室のドアを速やかに開けて、避難経路を確保する。電気・扇風機・エアコンなどを切る。	

<p>9 : 40</p> <p>9 : 45</p> <p>10 : 10</p> <p>10 : 20</p> <p>10 : 40</p>	<p>○地震が収まったことを放送で聞く。 ○水筒を持って、園庭へ避難し、整列する。</p> <p>○避難訓練について園長先生・担任保育者から二次避難することを聞く。</p> <p>○③⑤、④同士でペアになる。 ○③⑤ペア、④ペアの順番に移動する。</p> <p>○三郎池防災公園到着、人数確認をする。 ○園長先生、防災アドバイザーの先生からの話を聞く。 ・今日の訓練について ・地震の時の安全行動について ①まずひくく ②あたまをまもり ③うごかない</p> <p>○公園を出る。 ○園に戻る。</p>	<p>☆ 不安になっている子どもはいないかなど、全体に目を配ったりする。また、特に不安になりやすい子どもには保育者が身近に過ぎたりして、安心できるような言葉をかけていく。</p> <p>☆ 人数確認をし、全員が安全かどうか確認をする。また子どもが真剣に話を聞けるよう、様子を見ながら注意を促していく。</p> <p>☆園長…「揺れが収まりました。二次避難をします。より安全な場所へ移動するので、水筒を持って、園庭に集まりましょう。」</p> <p>☆ 今、何が起こったか、何故避難したかを子どもに問いかけながら自分たちの行動を認識できるようにする。</p> <p>☆ 保育者は素早く人数確認をし、早急に残留児の有無を把握できるようにする。</p> <p>☆ 車の往来に十分気を付けながら、保育者間で連携し、安全に子どもを誘導する。</p> <p>☆ 雨の場合は、傘の持ち方や周りを見ながら歩くことなど、その都度個別に、また全体に声を掛けながら、関わっていく。</p> <p>☆ 疲れたり、環境が違ったりするので保育者の話に集中できない姿も予想されるので、気持ちを切り替えられるよう、声を掛ける。</p> <p>☆ 安全面に十分配慮して、園に戻れるよう職員連携を行う。</p>
<p>反省及び 次年度 への課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の避難訓練では水筒をもって避難したが、3歳児が水筒を持ったまま素早く歩いて避難することが大変だった。坂道が多かったが、年長児が手をつないでくれたことで第2次避難場所まで歩くことができた。 ・ 初めて第2次避難場所まで歩いたが、想定していたより時間がかかった。避難場所までの道を通れば安全なのか考える機会となった。 ・ 長い距離だったが年少児をリードして避難する姿が見られた。また、なぜ防災公園に逃げるのか理解している子どもが多かった。 ・ 防災士の立場から見た園周辺の環境は問題が多かったなので、その視点から一度職員だけで周辺を見回り、より安全な避難先、またそこへ行くまでに要する時間を共通理解したいと思った。 ・ 緊急地震速報を流したが、十分に聞こえていなかった。普段からチェックしておくことが大切だと感じた。 ・ 実際に第2次避難場所に行ったことで、学ぶことが多々あった。職員でしっかり課題について共通理解し解決策を考えていきたい。 	

学校（園）名	高松市立国分寺北部幼稚園
派遣内容	避難訓練の指導・助言
日時	令和3年10月27日（水）10：00～11：00
場所	高松市立国分寺北部幼稚園 各保育室、園庭
参加者	幼児 約70名 教職員 約10名 アドバイザー 3名（香川大学1名、防災士会2名）
内容・日程等	大地震が起きた場合の園児の避難の仕方や教師の誘導の仕方、また、教師間の連携、心構え等についての指導・助言 10：00 打合せ 10：15 緊急地震速報を聞く 10：17 地震発生(震度4) 避難の放送・一次避難（各保育室） 10：20 火災発生 避難の放送・二次避難開始(園庭へ) 点呼・残留確認・非常持ち出し等 10：30 評価 園長先生・指導者の方からの話 10：40 職員への指導

1 取組における成果

- ・ 実際の訓練の様子を見ていただくことで、客観的な意見を聞くことができた。本園の立地場所を地形的な観点から見ていただき、液状化や、大木の倒壊等のリスクを避けた場所に避難すべきというご指導をいただいた。
- ・ 園児が大地震の時に机の脚を持つことが本当に可能であるかということ投げかけていただき、園児をどのようにして守るか、自分の命を自分で守れる子どもをどのように育てていくべきかを考える機会となり、次の訓練で活かすことができた。



【避難訓練後の講評の様子①】

2 今後の課題

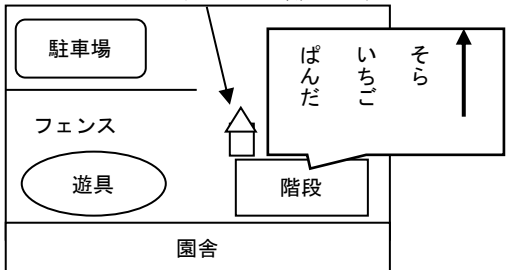
- ・ 職員に対しての指導で、職員がもっと緊迫感をもって、実際に地震が起きている状態を想定して、声を出して訓練を行う事で、子どもが緊張感を感じるということを教えていただいた。また、想定された訓練の内容を実際に声に出して情報の共有を図ることの大切さについても指導していただいたので、今後の訓練で実践していきたい。



【避難訓練後の講評の様子②】

【事業当日の参考資料】

地震・火災避難訓練計画

実施日時	令和3年10月27日(水) 10:00~11:00	
地震・火災想定 各学年の想定	震度4・受室電気の配線から出火 各保育室で活動中	
参加人数	園児 70名 職員 9名	
訓練の種類	地震発生後、火災発生時の避難訓練	
避難時間	15分	
R1の反省から	<ul style="list-style-type: none"> 放送機器が壊れる可能性があるため、その場合を想定しておく。 非常持ち出しなど、誰が行ける人が行くのではなく、誰が行くかを明確にしておく。 	
訓練の概要		各学級・担任の動き・指導内容
<p><事前指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 地震の時の注意点や「おかしもち」について紙芝居等で知る。 『教師のねらい』 声を掛け合いながら職員間の連携をとって臨機応変に対応できるようにする。 <p>10:15 緊急地震速報を聞く。</p> <p>10:17 地震発生 園内放送で避難指示(一次避難)(園長) 点呼、残留確認</p> <p>10:20 火災発生 園長T発見、事務(〇〇)に連絡 初期消火(〇〇) (通報 〇〇) 揺れが収まるのを待ち、園内放送で避難指示(二次避難)(園長)</p> <p>10:22 園庭へ避難開始 レンガ階段下 (できるだけ東寄り、ほっくほくハウスから離れて)</p>  <p>点呼、必要に応じて残留確認 安全を確保し、非常持ち出し</p> <p>10:30 評価(園長、アドバイザー) 各クラスにて事後指導</p> <p>10:40~11:00 アドバイザーの方より、職員向けの指導</p>		<p>各学年のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 放送や教師の指示を聞いて避難しようとする。 「おかしもち」の約束の意味や避難時の約束事を確認し、安心して避難しようとする。 ④ 放送や教師の指示を聞いて安全に避難しようとする。 地震時や火災時の避難の仕方を思い出し、話をよく聞いて安全に気を付けて避難しようとする。 ⑤ 状況に応じて、自分の身を守ろうとし、教師の指示に従い落ち着いて行動しようとする。 防災アドバイザーの方の話を聞き、避難訓練の大切さを知る。 <p>教師の動き・指導内容</p> <p><事前の準備・使用教材>「おかしもち」紙芝居 【訓練前の事前指導・確認事項・準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 訓練の前日に避難の際に、気を付けることについて話し、子どもたちと確認する。 ☆ 紙芝居等で、実際に大きな地震が起きた場合に起こりうることについて知らせたり、緊急地震速報を聞き、その役割について説明したりする。 <ol style="list-style-type: none"> 地震発生(放送) <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく簡潔に子どもへ指示(各担任) 出口の確保、電気を消す(各担任) 残留確認 1階(〇〇・〇〇)・2階(〇〇) 火災発生(放送:園長) <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく簡潔に子どもへ指示(各担任) 出口の確保 保育室の窓・出入り口窓を開けておく(各担任) 園庭へ避難 <ul style="list-style-type: none"> 準備ができた子どもの先頭で避難を誘導(〇〇・〇〇・〇〇) 配慮が必要な子どもの手をつなぎ列の最後から避難(〇〇・〇〇・〇〇)(〇〇:いちご組サポート) 点呼(レンガ階段下東寄り) <ul style="list-style-type: none"> 子どもに2列で並ぶように指示、複数で人数確認→園長に報告 静かに座って待つよう指示 事後指導 <ul style="list-style-type: none"> 本時の訓練の振り返り、反省
評価 成果 課題	幼児	教師
	<ul style="list-style-type: none"> 放送が始まると、静かに聞いて、教師の指示に従っていた。慌てる様子もなく、落ち着いて行動できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震からの火事の想定で教師は動いたが、声を出して情報の共有が不十分だった。子どもに緊迫感が伝わるように声を出していきたい。

学校（園）名	丸亀市立飯野小学校
派遣内容	地震を想定した実効性のある避難訓練への助言
日時	令和3年11月1日（月）9：30～11：00
場所	丸亀市立飯野小学校 各教室及び体育館
参加者	生徒 約316名 教職員 約25名 アドバイザー 2名（香川大学1名、防災士会1名）
内容・日程等	9：45～10：15 避難訓練及び講評（校内放送） 10：20～11：00 協議 担当職員への指導・助言

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 訓練の1週間前に、全校生が遭遇した場所に合った正しい避難方法についてのビデオ視聴をした。
- ・ 職員会議で周知時に、例年行ってきたような経路で避難できない場合があることを伝え、複数の避難経路を確認しておくようにした。

【中心活動】

- ・ より実践的な避難訓練を目指し、倒壊物（跳び箱）やガラス破片（赤玉）の代用で障害物を避けながら安全に避難するようにした。また、避難経路の行き止まり場所や大けがによる避難不能になる児童を伝えず、「ブラインド」で行った。
- ・ 取り残された大けが児童捜索時、声かけが非常に安心感を与えた。

【事後活動】

- ・ 避難訓練後、教職員に気付いたことを提出させ、紙面で課題を共有した。
- ・ 児童一人一人の振り返りを、「ともだちノート」に記入させた。
- ・ 避難訓練の様子をHPにアップし、保護者啓発を行った。

2 今後の課題

- ・ 訓練前に目的を設定して、ポイントをしばって振り返りができるようにすることで、より今後に生かせると教わった。
- ・ 靴箱の固定、窓ガラスのフィルム貼りなど、より最悪に備えた対応が求められることが明白になった。



【大けが想定児童の救助後】



【全校生避難完了】



【アドバイザーからの講評】

学校（園）名	高松市立川東小学校
派遣内容	地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和3年11月10日（水）9：30～11：10
場所	高松市立川東小学校 各教室及び体育館、応接室
参加者	児童 約300名 教職員 約25名 アドバイザー 4名（香川大学2名、防災士会2名）
内容・日程等	9：30～10：15 避難訓練 10：45～11：30 協議・助言・指導

1 取組における成果

【事前活動】

- 事前指導（朝のTV放送→学級での指導）が効果的で心構えができた。事前のTV放送でのリアルな映像や、実際の地震はいつ起こるかわからないという点も自分事として真剣に避難行動できるきっかけとなった。

【中心活動】

- イレギュラーなことへの対応として、事前計画とはちがう急な避難経路の変更を行った。急きょけが人が発生するという想定を行った。今回はまさにその突発的な事象へ臨機応変な対応力や判断力が問われる訓練であり、実際も教師の判断力が必要であると再認識できた。
- 6月の火災対応の避難訓練よりも迅速で確実な避難ができた。教職員と児童の安全意識が向上している。
- けがしている児童は、その時に必ず担任・学年団・養護教諭等が確認し、安全に避難できるように手だてを講じておく必要を感じた。また、発災時に状況に応じてトランシーバーを活用できるよう準備する。

【事後活動】

- 緊急地震速報への対応、シェイクアウト訓練の活用、学校の建物の土壌や気候の特徴、トランシーバーの有効性等や機器の違いなど、専門的見地から多くのアドバイスをいただき、防災アドバイザーの来校・指導が学校の危機管理や子どもへの防災教育の充実・見直しに向けて効果的であった。



【避難の様子】

2 今後の課題

- 児童への事前学習や防災教育のさらなる充実。
- 本事業を活用し、再度マニュアルの見直しや検討を行い、修正等につなげていくこと。
- トランシーバーの使用は効果的であった反面、練習不足も否めない。今後は校外学習等で普段から使用に慣れておく。また、今後一人一台、ストラップとともに配備予定。また、学年末にすべての機器の電池交換を行う。



【振り返りの様子】

【事業当日の参考資料】

令和3年度 地震避難訓練実施計画

高松市立川東小学校

1 目的

- (1) 地震発生時において安全かつ迅速に避難する方法を理解し、身に付けることができる。(児童)
- (2) 地震時の火災等の非常事態発生に際しての避難経路を確認することができる。(教職員)
- (3) 防火・防災等に関して児童の危機意識や安全意識を高めることができる(児童・教職員)

2 避難時のキーワード

お…おさない、 は…はしらない、 し…しゃべらない、 も…もどらない

3 日時

令和3年11月10日(水) 事前指導(9:30~9:50)
 避難訓練(9:50~10:00) 放送9:50頃
 事後指導・講評~TV放送で~(10:07~10:15)

4 本部

本部長……校長、指揮……教頭(〇〇)、本部付……事務(〇〇)

5 避難場所

運動場トラック内西側、体育館に向かって整列する。(サッカーゴール前)

※一度、運動場に集まるが、指導講評はTV放送で行う。

6 実施内容

想定	地震発生状況	9時50分、緊急地震速報の放送が鳴る。震度6の地震発生、10秒間のゆれが続く。立っていることは難しく、教室の本棚からは本が崩れ落ち、教室後部に置いてあった花瓶がフロアに落下。教室中央部の蛍光灯も1つが落下した。また、廊下の窓ガラスの一部が破損し、破片が落ちている。理科室では薬品庫の薬品が幾つも倒れている。ただ、幸いなことに、学校全体としては1か所も火災は発生していない。
放送		職員室にいる職員(放送・〇〇)が、緊急地震速報に基づき非常放送を流し、地震の発生を知らせる。
<p>☆ 避難は、通告行動に関係ある者を除き、全員が行う。</p> <p>9:50頃 地震発生 <緊急地震速報の報知音> 非常放送①<「避難訓練。避難訓練。緊急地震速報です。間もなく大きな揺れが予測されます。落ち着いて安全行動を取り、揺れに備えましょう。」「上から落ちてこない、横から倒れてこない場所に避難しましょう。」>(〇〇)</p> <p>地震の効果音(1分程度) 非常放送②<「大きな地震が発生しています。」「揺れが完全におさまるまで動かないで待ちましょう。」>(〇〇)</p> <p>1 避難にあたっては、順次以下の行動をとる。</p>		
<p style="text-align: center;">児童の行動</p> <p>○ 音や非常放送を静かに聞き、教師の指示に従い、安全行動(机の下にもぐる)をとる。</p>		<p style="text-align: center;">教師の行動</p> <p>○ 児童への指示、行動 「頭を守りましょう。」 「机の下にもぐりましょう。」 「机の脚を対角に持ちましょう。」 「大丈夫、心配しなくていいよ。」 (児童の不安を和らげる声かけ)</p> <p>★窓や壁際から離れさせる。(窓側の児童への指示) ★運動場や体育館の中央に集める。 (体育や他の活動をしているとき) ★ガスなどの使用を止める。 (家庭科の調理実習や理科の実験をしている場合) ★トランシーバーの電源を入れておく。</p>

9：52頃 揺れがおさまる<地震の効果音終了>

非常放送③<「ただいま、揺れはおさまりましたが、児童のみなさんは安全確認までしばらく教職員は避難経路2の安全点検をして、異常がある場合は職員室まで連絡してください> (〇〇)

※避難経路の安全確認をして、危険箇所があればトランシーバーで連絡する。

9：54頃 非常放送④<「今から先生の指示に従って運動場に避難しましょう。」> (〇〇)

児童の行動

- (児童用タタメット、セーフネット準備)
- タタメット等を着用する。
- 静かに素早く整列し、迅速に(安全のために決して走らずに)避難する。
- 避難場所(運動場)に整列する。
※運動場に出たら小走りで集合する。
(それまでは走らない)

教師の行動

- (教師用ヘルメット準備)
- あわてずに落ち着いてタタメット等を着用するように指示する。
- ※ 避難後、児童数の確認を徹底する。
(一人ずつ確実に人数を最低2回確認)

2 人員点呼をし、以下の順序で避難児童・教職員の人員確認を行う。

(1) 報告順序

学級担任→ 学年主任→ 教頭→ 校長

(2) 報告の仕方

1. 担任から学年主任へ

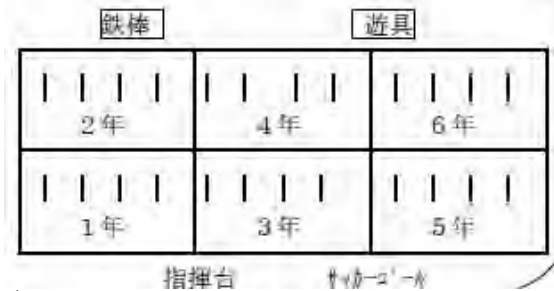
「① ○年□組在籍△名 ② ◇名欠席(遅刻者) ③ 本日出席☆名 ④ 現在数◎名
⑤ ・全員避難完了(◆名不明不明児童氏名負傷児童がいる場合も報告)」

2. 学年主任から教頭へ

上記(2)の1.の内容に準じる。

3. 教員自身の避難完了報告も入れる。

※教職員の確認(〇〇)



3 避難場所での整列の仕方

※密を避けて広く使って各クラス2列

(前後は1m以上、左右は2m以上間隔をとること)

体育館に向かって南東が6年、
南西が5年…、1年の順。
龍桜学級の児童は1年の北隣に。

※ 龍桜学級の児童は交流学級での授業中は人員確認も含め交流学級で、龍桜での授業時は担任と避難し、避難場所では交流学級で整列する。

※ 整列時に担任と確認し、龍桜学級のみで整列し直さない。

整列の全体指揮=〇〇

4 避難誘導責任者(児童の先頭)

※担任が教室に不在の場合は
残留児童担当者が誘導

東棟 1F〇〇 2F〇〇 3F〇〇
西棟 1F〇〇 2F〇〇 3F〇〇

5 管理責任者(児童の後尾)

※担任が教室に不在の場合は
残留児童担当者が誘導

東棟 1F〇〇 2F〇〇 3F〇〇
西棟 1F〇〇 2F〇〇 3F〇〇

6 残留児童確認

3F〇〇 2F〇〇
1F〇〇 体育館〇〇

※残留児童の有無を確認し、教頭に報告
(負傷児童の有無も)

※救急救護担当=〇〇

避難経路2

※要確認(被害状況によって予定経路が通れない可能性もあり)

- 1・2年 直接運動場へ
- 3・4年 2F中央廊下より管理棟横階段を通り、運動場へ
- 5年 西棟非常階段を通り、運動場へ
- 6年 中央階段を通り、児童玄関から運動場へ

講評 10：07頃

(指導) 防災アドバイザーより

(講評) 校長

(進行) 〇〇

7 訓練での留意点

想定での地震発生状況を再現するため、地震発生時に廊下などに「窓ガラスの破片」の模型を作って置いたり、割れたとされる窓ガラスや額縁に「割れている」「まだ破片が落ちてくる」「危険」などの張り紙をするなど、地震後の避難に関わる危険箇所を知らせる環境を作る。

8 児童への事前指導

◎ 命を守る重要な学習ということをしっかり認識させる。以下の「頭を守る」「机にもぐり、脚を対角にもつ」の理由を説明しておく。

☆ もし、児童が教室や教室前ろうか、トイレにいる場合、教室でタタメットをかぶり、担任の先生（他の先生）の指示に従う。

☆ 児童が他の教室、廊下など、児童が自分の教室から遠ければ、その場で放送をよく聞いて各自避難する。

☆ 児童が自分の教室以外にいるときは、その場にいる先生の指示にしたがい、避難する。

☆ 児童が運動場にいる場合はそこにいる先生に従い、集合・整列する。

☆ 事前に「タタメット等」が使えるか確認し、付け方等について十分に練習しておく。（低学年）

☆ 避難時に落下物や危険箇所がないか、安全確認しながら避難するようにする。

☆ 避難訓練終了後、児童は各学級ごとに上靴の裏の泥汚れを取り除いてから教室へ帰る。

※ 各クラス靴ふき用のぞうきんを2～3枚避難経路に用意しておく。

◎ 終了後、各学級で「今の避難行動で命を守ることができたか」について振り返る。担任が講評を行う。

9 全体講評

訓練後、防災アドバイザー、管理職からの助言や教職員アンケートをもとに、担当が総評を行い、マニュアルを修正、更新する。

10 当日指導者

- ・ 学校防災アドバイザー4名（香川大学2名、防災士会2名）

※ 訓練後（業間および3校時）、管理職および防災担当がご指導をいただく予定

令和3年11月17日 終礼にて

令和3年度 第2回避難訓練（地震想定）反省・今後の避難行動等

※第1回防災訓練（火災想定）反省内容も再度加味

<p>今回の訓練の反省（成果・課題等） ◎…よかった点 ▲…課題・提案</p>	<p>実際の訓練での実施事項・修正・確認等 （今後の日常の指導に活かす点）</p>
<p>1 訓練計画・想定状況、事前指導</p> <p>◎ 事前指導（TV放送→学級での指導）が効果的で心構えができた。真剣味をもって取り組んでいた。（6人）</p> <p>◎ アドバイザーの来校・指導も効果的であった。</p> <p>◎ リアルな映像や、いつ起こるかかわからないという点でも、自分事として行動できた。</p> <p>◎ 防災センターの方の話ともつなげて指導できた。</p> <p>◎ タタメットの練習ができた。</p> <p>◎ 貼り紙が危機意識の向上につながった。（2人）</p> <p>◎ 想定される危険な物や場所の表示は教職員や児童に自分事として考えさせるよい支援となっていた。</p> <p>◎ 想定外のことがあり、放送の重要性が分かった。</p> <p>◎ 1回目が経路確認、2回目が想定外の訓練でよかった。</p> <p>▲ 担任不在の場合、児童がクラスの人数、男女の人数ぐらいは把握していてもよいのでは。（高学年）</p> <p>▲ さざんか通りがピンとこない。</p> <p>2 児童の避難の様子（第1次避難・第2次避難）</p> <p>◎ すばやく避難できていた。（4人）</p> <p>◎ 静かに避難できた。（5人）</p> <p>◎ 落ち着いて整列ができた。（3人）</p> <p>◎ 緊張感をもって並べていた。</p> <p>◎ 避難場所の変更にも対応できていた。よく聞くことの大きさが改めて実感できた。</p> <p>◎ 計画通りではない、その場所での判断を促す。</p> <p>▲ 児童の意識の差を感じた。（ゆっくり動く。話し声等）（3人）※1</p> <p>▲ 机に入りきらない児童が話してしまっていた。 ※1</p> <p>▲ ケガにより松葉づえをついている児童の避難方法の共通理解※2</p> <p>▲ 通行止めの際の経路変更が迷った。</p> <p>▲ 放送は廊下からは聞こえなかった。</p> <p>▲ 担任が2人とも経路の確認でクラスを空けてしまった。 ※3</p> <p>▲ 危険箇所の連絡は具体的に行うべきであった。</p> <p>▲ 報告はもっとシンプルにしたい。</p> <p>▲ 急な指示は担当よりも名指しで。</p> <p>3 教員の動き・対応</p> <p>◎ 負傷児童がいたとの想定で、校長より指示を受け、急ぎよ教室に戻って対応できた。</p> <p>◎ けがをしている児童がいたが、保健室と連携して安全に避難できた。</p> <p>▲ 負傷児童にだれが対応するか考えておくことも必要。</p> <p>▲ 負傷者への対応などの指示が具体的に欠けていた。</p>	<p>児童の指導</p> <p>「命を守るために」という言葉を児童と共有し、その視点で指導を！</p> <p>○ 事前指導を具体的にしっかり行う。</p> <p>○ 訓練を「真剣に行う」ことの重要性を今後も指導（これが全ての基本）。日頃の教室の移動の際、整列して静かに動くことを徹底する。 ※ 移動教室の際、教師引率で無言移動の徹底</p> <p>○ タタメット装着訓練を普段から行う。</p> <p>○ 全体の講評・指導もTVが良い。</p> <p>※ クラスの人数、男女の人数を日頃から児童にも伝えておいてもよい。</p> <p>※ 校舎内、敷地内のいろいろな名称を把握しておく。校内での呼び名を知っておく。</p> <p>避難</p> <p>○ 経路の変更への臨機応変な判断・対応力がすばらしかった。その判断力が問われる訓練であり、実際も教師の判断力が必要。</p> <p>○ 6月よりも迅速で確実な避難ができた。児童の安全意識が向上している。</p> <p>○ 龍桜学級の児童は交流学級で安全報告ということに今回から変更した。避難後、龍桜学級と交流学級で引継ぎを。報告のシンプル化や急な指示については今後も検討したいが、様々なイレギュラーなことにも対応できるということも大切。</p> <p>※1 「なぜ、静かにすばやく真剣に訓練しなければならないのか」をしっかりと学級で伝え話し合い、命を守る活動だという意識で今後も継続していく必要がある。低い意識でのぞむ、小声でもはなしている児童へは毅然とした指導が必要。また、高学年では、机に体が入り切らない児童もでてくる。「まず頭を守る」指導が必要である。</p> <p>※2 ケガしている児童は、その時に必ず担任・学年団・養護教諭等が確認し、安全に避難できるように手だてを講じておく。発災時、必要であればトランシーバーで救助を要請する。</p> <p>※3 担任は教室前廊下の安全確認だけでよい。</p> <p>教員の動き</p> <p>○ 突発的にケガをした児童に対してだれが対応するかは事前に計画できない。救助の担当が計画にないという意見もあったが、校長の指示のもと、適切に対応できるようにする。</p> <p>○ 急なケガの時に、トランシーバーや近くの人に</p>

<p>▲ 急な負傷者対応により龍桜児童の避難の確認ができなかった。</p> <p>4 トランシーバーの活用状況</p> <p>◎ 要救助者、通行止め等の連絡で有効に活用できた。</p> <p>▲ 表示が「Lo」になった。定期的な充電が必要。</p> <p>▲ チャンネルが変わってしまった。</p> <p>▲ 使い方を確認しておくようにする。要練習である。(5人)</p> <p>▲ 他者からの声が聞き取りにくいことがあり、情報の共有が難しかった。</p> <p>5 その他</p> <p>◎ この機会にあらためて危険箇所の確認ができてよかった。</p> <p>◎ 反復による行動の定着と、現場での判断力を鍛える両面での立案、実施する訓練の在り方がよかった。</p> <p>▲ 避難場所が見通しが悪かったこともあり、教職員の安全確認が難しい。</p> <p>▲ 雨の日の避難も頭に入れておく必要があると改めて感じた。</p> <p>▲ 龍桜学級の児童(特に肢体不自由児)への対応をもっと協議・確認する必要があると感じた。</p> <p>▲ 指導講評があるのでもっと早めに訓練を開始すれば良かった(2人)</p> <p>▲ トランシーバー、名簿、ビニール袋などを入れた避難リュックがあればよい。</p> <p>▲ アドバイザーの当日の動きを周知してほしい。</p> <p>▲ 通常通り、専科も含めた授業時に訓練を行うとよい。</p>	<p>即時知らせるなどの対応が必要。</p> <p>○ 龍桜学級児童は交流学級にて人数確認する。</p> <p>トランシーバー</p> <p>○ 効果的であった反面、練習不足も否めない。これからは運動場でのやりとりや校外学習等で普段から使用に慣れておく。また、今後一人一台、ストラップとともに配備予定。また、学年末にすべての機器の電池交換を行う。</p> <p>その他</p> <p>○ 団で把握しにくい場合も考えられる。教職員担当が教職員名簿等でしっかり確認する。</p> <p>○ 肢体不自由児やケガの子への対応を普段から考えておく必要がある</p> <p>○ 今回はワークシートもなかったもので、結果としてもっと開始時刻を早めてもよい。</p> <p>○ 朝、出欠Wボードの確実な記入が重要</p> <p>○ 保護者や地域と連携した防災学習を今後も検討が必要。</p> <p>○ 今回の真剣な取り組みを今後の普段の移動、集団行動に生かすべき。</p> <p>○ 避難グッズを一括して入れた袋を各教室に置いておくとうい。</p> <p>○ 休み時間等、様々な場面を想定した訓練を検討</p>
---	---

学校（園）名	高松市立多肥幼稚園
派遣内容	・引き取り訓練に関する指導・助言 ・防災計画や危機管理マニュアル等への助言
日時	令和3年11月16日（火）13：00～15：00
場所	高松市立多肥幼稚園
参加者	幼児 約42名 教職員 約9名 保護者 36名 アドバイザー 3名（香川大学1名、防災士会2名）
内容・日程等	13：00～13：45 避難訓練、引き取り訓練 14：00～15：00 指導・助言 ・防災計画や危機管理マニュアル、多肥地区における防災に対する配慮点等

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 事前に引き取り訓練について、職員間での共通理解を図るとともに、今年度実施した地震の避難訓練の反省・課題についても再確認する時間を設けることで、職員一人ひとりの役割や責任をより自覚しながら取り組むことができた。

【中心活動】

- ・ 実際の避難訓練において、職員同士の声掛けや行動はよかったが、子どもを守ることを優先する職員が多く、職員自身の安全確保が十分でなかったことが課題である。また、地震が起きている間や余震に対する子どもへの声掛けも意識して行うことが大切であることを学んだ。

【事後活動】

- ・ 園の施設で配慮する点として、階段下や通路における荷物や家具類の整理整頓や通路の確保が必要であることから、園内の荷物の片付けや見直しを行い、キャスター付きに関してもロックがかかっているかどうかの確認も行った。
- ・ 保護者に対しても、家庭における防災に対する配慮点のみならず、多肥地区における防災に対する助言を頂く機会をもつことで、保護者自身も防災に対する意識の高まりや見直しのきっかけとなった。
- ・ 今回の実施報告書や課題、園周辺の写真を小学校に持参し、情報共有を行うことで、危険な箇所や防災意識の共通理解を図ることができた。



【園庭へ避難】



【引き渡し待機】



【保護者への引き渡し】

2 今後の課題

- ・ 施設内の設備（エアコン、窓ガラス等）については、防災に対する対応が来ているかの確認や安全確認についても、毎月の安全点検日等を利用して定期的に行えるようにしていきたい。
- ・ 第二避難場所が多肥小学校になっていることから、次年度は多肥小学校とも連携した避難訓練を行えるように計画したい。

【事業当日の参考資料】

11月 防災訓練（引き取り訓練・シェイクアウト）

- 日時 令和3年11月16日（火） 13：00～
- 想定 高松地域に震度7の地震が起こる。園舎内が倒壊の恐れあり。
- ねらいと指導内容

	ねらい	指導内容
3	大地震が発生した時、どうすればいいのか分かり避難する。	・「お・か・し・も・ち」の約束を確認し、守る。 ・教師の指示をよく聞き、教師と一緒に避難する。
4	大地震が発生した時の避難の仕方を確認し、避難する。	・放送や教師の指示をよく聞き、迅速に避難する。 ・地震時の約束を守り、避難する。
5	大地震が発生した時、自分で判断し適切な避難行動がとれる。	・適切な避難方法を知り、自分で判断し迅速に避難する。 ・教師の話を注し、友だちと協力した行動がとれる。

- 避難場所等 園庭 大門付近（北側を向いて）→遊戯室へ移動（引き渡しのため待機）
- 避難経路
にじ 保育室→園庭
ほし 保育室→階段→玄関→園庭
つき 保育室→非常階段 →園庭

6 展開

- 13：00 職員のスマートフォンに登録している地震訓練アプリから訓練開始の合図がある。
教師の指示に従って身の安全を確保し、防災頭巾を被って園庭に避難する。
- 13：10 引き渡し訓練（保護者にメール配信を行い、園までお迎えに来てもらう）
- 13：40 引き渡し訓練終了
保護者に対する講評及び講話
- 14：00 職員に対する指導・助言

7 引き取りカード

引き取りカード	
子どもの名前	()
保護者の名前	()
住所	()
連絡先	()
避難先	()
高松市立多肥幼稚園	

園児一人に対して1枚利用。
きょうだい児についても、それぞれに必要なため、クラスごとに色分けされたカードを年度当初に配付。
引き取りに来る可能性のある方にも渡しておけるようA4用紙に8人分印刷しておく。

※ お迎えに来た際、引き取りカードのみならず、お迎えの時間や園児のケガの有無、連絡先などの確認などを行い、名簿に記録しておく。

学校（園）名	高松市立古高松南小学校
派遣内容	地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和3年11月24日（水）10：00～11：00
場所	高松市立古高松南小学校 PC教室
参加者	教職員 3名 PTA 会長1名 地域防災関係者3名 アドバイザー 3名（技術士会1名、防災士会2名）
内容・日程等	10：00～11：00 協議会

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 学校の方で、来年度実施予定の「地域と共に行う防災学習」についての案を構想した。

【中心活動】

- ① 学校からの説明
- ② 防災アドバイザーからの提案
学校管理マニュアルの防災の部分の確認
地域と行う防災学習の例の提示
避難所の話
- ③ 質疑応答



【協議会の様子】

【事後活動】

- ・ ご指導いただいた学校危機管理マニュアルの修正を行った。
- ・ 地域と詳しい打ち合せをするきっかけとなった。
- ・ 地域と今後の方向性の確認ができ、来年度の日程が決まった。

2 今後の課題

- ・ 本事業を活用し、来年度の「地域と共に行う防災学習」の細案を立てること。

【事業当日の参考資料】

資料抜粋

地域合同防災訓練・学習参観・災害時の引き取り訓練について（案）

(1) ねらいと評価規準

自分の安全についての課題や解決策について考え、地域と協力して行動できるようにする。

学びに向かう力・人間性	思考力・判断力・表現力	知識・技能
災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を生かして自らの安全を確保しようと思う気持ちを育成する。(○・△)	自他の生命を尊重し、安全な行動をとるための判断をすることができる。(□・△) 災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つと考え判断し、実践している。(○・□・△)	地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解する。(□) 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解する。(○・□・△)

※ ○人間関係形成にかかわるもの □社会参画にかかわるもの △自己実現にかかわるもの

(2) 日時 令和4年 9月 日（土か日）（雨天決行）

(3) 活動場所 運動場（雨天時は体育館）

(4) 防災教育の進め方

① 家庭と児童へのアンケート調査から防災意識を確認する。

② 防災教育の流れを考える。 教頭、教務、特別活動部会

③ 運営委員会、職員会議で全教員で確認、分担する。

A メール配信（地震がおきたという仮定メール送信）・保護者と児童が共に登校

保護者と児童が共に登校経路に危険な場所がないか、確認できる。

また、登校後に受付を保護者と児童が行うことで、実際に災害が起こったときの安否確認体制が連携できる。＜保護者と共に登校し、名簿で確認＞

※ 登校時も地域の方々に協力していただき、一緒に参加していただけるような工夫が必要。

B 各学年で防災に関する授業

学年で行われる公開授業では、学年の発達段階を考慮に入れた内容となっている。指導案、板書計画を作成し、各学年団で授業内容を話し合うことで、チームで子どもの指導にあたる。

※ 参観者は、保護者、学校運営協議会、地域自主防災の方。それ以外の方は運動場で地域の方に体験学習を行う。

C 学校全体で避難訓練

授業参観後、保護者に運動場に出ていただく。その後、避難訓練を行い児童が外に出る。そして引き取り訓練をすることで、児童はその後、保護者と一緒に移動することになる。

児童と保護者は地区の場所に移動し、その後地域合同防災訓練に参加する。

D 運動場で防災クイズ・・・児童会からクイズ

E 体験学習案 ※3年間で一通りの体験を行う。

・ 消防署と連携 ・ 救命措置訓練 ・ 起震車体験・見学

各ブース運営は、地域の方にお問い合わせする。教職員は、担当地区で児童管理を行う。

④ 家庭と児童への事後アンケート調査 … C→A

(5) 地区

西新開	東新開	本三	北堀江・新田北	ドリームタウン新田
南堀江	本村・新田南	西南	八反地	宮の原・春日団地
南春日	公文・久本	夕陽ヶ丘	岡山・さつき	小山西・南

(6) 体験学習の例

- ・土のうづくり ・水消火器 ・簡易タンカづくり ・三角巾活用体験 ・煙のトンネル
- ・バケツリレー ・小プールでの歩行困難体験 ・簡易トイレづくり ・段ボールベッドづくり
- ・AED 保護者体験を児童見学

(7) 24日に話し合う視点

- ・内容の確認
- ・学校と地域の窓口が1つにする方法。(例 学校：教頭)
- ・体験の内容・場所・時間
- ・学校、保護者、地域の分担

学校（園）名	観音寺市立大野原中学校
派遣内容	地域の防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練等への助言
日時	令和3年11月26日（金） 11：30～12：20
場所	観音寺市立大野原中学校 各教室、校舎、運動場
参加者	生徒 273名 教職員 35名 観音寺市教育委員会 1名 アドバイザー 3名（香川大学1名、防災士会2名） ※ 消防署は、コロナ感染予防の観点から現地指導をみあわせ。水消火器の使用 方法や通報訓練時に助言をいただいた。
内容・日程等	11：35～11：45 避難訓練（運動場に避難） 11：45～11：50 生徒会長から呼びかけ 11：50～12：00 各教室にもどり、タブレットにログイン 12：00～12：10 生徒1人1台端末によるクイズと意識調査 12：10～12：20 オンラインによる香川大学の先生から防災教育

1 取組における成果

【事前活動】

○ 避難訓練の計画段階から学校担当者と事業担当者が相談し、より実践的な避難訓練をめざし、生徒とともに計画することを決定した。

・ 2週間前…生徒会に計画・立案を依頼。昼休みに活動し4点に整理

①出火場所を各階(1F 調理室、2F 第1理科室、3F 第3理科室)のいずれかとし、選択型に変更して実施

②地震による建物の倒壊(避難経路に障害物)や防火扉を閉める

③負傷者や行方不明者への対応

④タブレットを活用した防災教育の実施

・ 1週間前…給食時の放送で全校生に周知→避難経路等の確認を促す

・ 当日 …担任の先生から避難訓練の再周知と避難経路等の確認



【事前に生徒会役員と協議する様子】

○ 訓練時、生徒や教職員が精神的な混乱等をさける目的から事前周知したことにより、当日までに生徒・教職員ともに避難行動や経路を確認しあう姿が多くみられ、より実践的な訓練につながった。

①出火場所を選択型にしたことにより、担任と生徒、学年団の教員間、学年主任と管理職等、また担任不在時や消化班として消火にあたる教員との連携等、状況に応じた確認が具体的に行われた。

②教員が防火扉を閉めたことがないため、事前の開閉確認やその時の指導内容を確認する姿も



【水消火器による初期消火訓練】

みられた。

- ③担任等の教員が負傷者時の対応として、養護教諭との連絡方法や搬送方法の確認等をする姿もみられた。

【中心活動】

- 緊急地震速報や火災報知器の音を活用した訓練が実施できた。
 - ①消火班の教員が1F調理室外で水消火器の消火活動を体験できた。
 - ②全校生が防火扉の閉まっている状態を体験し安全に避難できた。
 - ②建物の倒壊(下駄箱が倒れ当初予定していた避難経路が通れない)により、誘導係がその状況から判断し、避難経路を変更して避難できた。
 - ③負傷者や行方不明者は、次のとおりで主に生徒会役員が担った。

学級	負傷者	行方不明者
2-1	頭部出血 (歩行可)	
2-2	車椅子 (歩行不可)	
2-3		2階西女トイレ
1-1		1階下駄箱
1-2	松葉杖 (右足歩行可)	
1-3		1階東女トイレ

- ③今年度、9学級中6学級を35歳以下の教員が担任しており、負傷者への処置方法や搬送方法、養護教諭との連絡、隣の学級との連携など初めて体験する内容が多く、より実践的な避難訓練になったという振り返りがみられた。
- 生徒会長が全校生に呼びかけたこと、複数の生徒会役員が協力して呼びかけたことにより、全校生が集中して話を聞いており、大変良かった。
- ④1人1台端末の活用は、コロナ対策と同時に、生徒がクイズやアンケートを通して防災教育に集中できる良い取組みであった。全校生が一斉にアクセスすると、ネット回線が混雑し一部の生徒がネットに入れなかったり、待機したりしたことが大変残念であった。



【3F 避難経路に移動した机や配膳台】



【2F 避難経路に移動した長机】



【1F 避難経路が下駄箱で遮断された様子】



【3F 防火扉を通り避難する様子】



【2F 防火扉を通り避難する様子】



【1F 状況に応じ避難経路を誘導する様子】



【生徒会長からの呼びかけ】



【生徒会役員が訓練中の危険な物や学校外での行動を呼びかける様子】



【松葉杖の生徒の搬送方法と処置】



【車いすの生徒の搬送方法】

【事後活動】

- アドバイザーから訓練への助言
 - ・学校という公共の場は、ぜひ本棚や下駄箱は家具の固定もしっかり行い、命を守ってほしい。香川県防災士会は事業協力もします。
 - ・消火係が初期消火していたが、実際には火の大きさにより判断が必要となる。どれくらいの火ならば初期消火を行うのか。
 - ・頭部出血の負傷者が運動場で一人休憩していたが、出血が伴う場合は経過を観察人が近くにおり、常に様子を確認すべきである。



【頭部出血の生徒の応急処置】

・行方不明者を単独で検索していたが、複数で、探す場所を決めて検索することで検索する教員の安全を確保しながら行いましょう。

- 避難訓練後、教職員が気付いたことなどを提出した。その内容に加え、アドバイザーや市教委からの指導・助言を紙面で共有した。今年度の訓練の反省から、次年度に向けて検討し、危機管理マニュアルの見直しを行う。
- 避難訓練の様子などは、校長だよりに掲載し、保護者啓発を行った。

2 今後の課題

- ・本年度訓練の反省や課題から、次年度に向けた見直しや検討を行う。
- ・本事業を活用し、再度危機管理マニュアルの見直しや検討を行い、修正等につなげていくこと。



【オンラインによる防災教育の様子】



【一人一台端末による防災教育の様子】

II

各学校（園）の取組み

3 教職員の研修会等への助言

学校（園）名	綾川町立綾上小学校
派遣内容	浸水被害に対する垂直避難・水難事故時の対応
日時	令和3年6月22日（火）15：10～16：30
場所	綾川町立綾上小学校 会議室・プール
参加者	教職員 15名 アドバイザー2名（香川大学1名、防災士会1名）
内容・日程等	教職員研修 15：10～15：40 垂直避難について・地域の地形について 15：45～16：10 プール（着衣泳）について 16：10～16：15 校長挨拶→閉会 16：15～16：30 避難訓練等について相談（校長・教頭）

1 取組における成果

【事前活動】

- ・ 今まで実施したことのなかった垂直避難について想定し、避難訓練の計画を作成することができた。

【中心活動】

- ・ 浸水する地域、避難経路などを確認するなかで、川を渡らないと避難できなかったり、土砂崩れが起きる可能性がある道を通らなくてはいけなかったりすることが分かり、より安全な避難経路を確認することができた。
- ・ 地形から、どの方向に避難すればよいかは分かったが、その道が実際に通れるのか、全校生が避難できるのかを確認しておく必要がある。
- ・ 大切なのは行動を決めておくことでなく、様々な想定をしたうえで、その時の状況から最善の行動を選んでいくことだ。
- ・ 事前に準備しておくもの、緊急連絡先の名簿や備蓄品など素早く持ち出すべきものの確認ができた。

ハザードマップと過去の災害発生図、3Dの地形図を見比べて、避難経路を考えた。避難場所に行くために川を渡ったり、土砂崩れの危険のある道路を通らなくてはいけなかったりしたので、最善の経路の確認ができた。

- ・ 水難事故の際に、自分の身を守るための行動の仕方、溺れている人を見つけた際の救助の仕方、児童に対する指導の仕方が分かった。



【ハザードマップ】



【過去の災害発生場所】



【3D地形図】

- ・ 助けようと自ら救助者のもとに近づかないこと、浮くものを救助者の近くに渡したり、海上保安庁「118」に電話したりするなど、自分の安全を確認しつつ救助を考えるのが大切である。



【水難事故、要救助者への対応】



【着衣水泳の指導法】

自分が落水したときは、あわてずに浮いて待つことが重要であること。要救助者がいる場合は、あわてて自分が助けに行くと二次災害の危険があるため、身近にある浮きそうなもの（ペットボトル・ランドセルなど）を投げ入れたり、大人の助けを呼んだりするように指導することを教わった。

【事後活動】

- ・ 今回の想定を基に、2学期に地震及び池の堤防決壊に対する垂直避難訓練を実施する。その内容を踏まえ、本校の実態に応じたマニュアルを作成していく。
- ・ 避難訓練の様子や課題などは、学校新聞に掲載し、保護者啓発を行う。

2 今後の課題

- ・ 「学校に任せていれば安心だ。」ではなく、学校の体制にも限界があり、有事の際には、家庭の協力が不可欠であることを周知していく必要がある。
- ・ 校内で継続的に着衣泳を行い、水辺の危険性を児童に伝えていく。
- ・ ライフジャケットの装着体験などを行い、水辺で安全に楽しく過ごすためのルールを伝えていく。

学校（園）名	観音寺市立大野原中学校
派遣内容	本事業の趣旨に沿って学校（園）等と相談（教職員研修）
日時	令和3年8月5日（木）14：00～15：00
場所	観音寺市立大野原中学校 パソコン教室
参加者	教職員 25名 アドバイザー 3名（香川大学1名、防災士会2名）
内容・日程等	教職員研修 14：00～14：10 大野原中の過去の災害、校区のハザードについて 14：10～15：00 教員1人1台端末を活用した研修

1 取組における成果

【中心活動】

○ 講話

- 平成16年度台風被害（土砂災害による死者）やため池の決壊など、過去に大野原町内で発生した災害を知り、校区における現在のハザードの特徴を学んだ。

背景には、本校職員の実態（観音寺市と三豊市以外から勤務する職員が21%、35歳以下の職員が25%在籍する等）から、地域の災害等が学校内で受け継がれにくくなっている現実がある。

○ 研修

- 1人1台端末を活用し、「情報収集の方法」を体験するとともに、「本校のハザード（地震時の最高震度、液状化、津波や土砂災害想定区域など）」を各自が学んだ。ICT活用により視覚的に理解できたため、発災時を想定した避難や対策についての発言が教員間でみられた。また、有事に備え、携帯電話にアプリやURLを登録する教員もみられ、防災意識や危機意識の向上がみられた。

- 紹介されたもの

「観音寺市総合防災マップ」

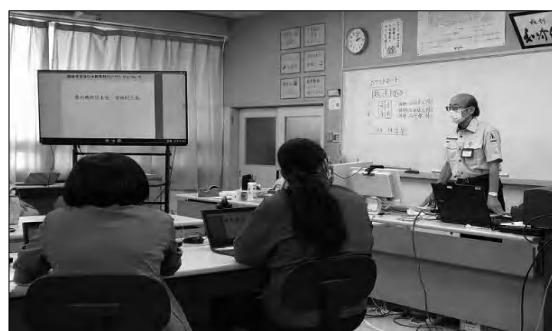
「香川県防災ナビ」

「香川県洪水浸水想定区域指定河川」

「高松地方气象台」

「国土地理院地図 重ねるハザードマップ」

など



【地域の防災士が大野原町内の過去の災害を語る】



【タブレットを活用し、校区のハザードを学ぶ】



【教員同士で教え合いや確認する様子】

【事後活動】

- NIE 研究指定校の実践の一環として、次の2つを取り組んだ。
 - ・ 大野原町内のハザードマップの掲示
 - ・ 市内で開催された防災に関する新聞記事を取り上げ、全校生に啓発を行った。



【大野原町内のハザードマップの掲示】



【防災に関する新聞記事を掲示】



【全校生が防災に関する新聞記事から学ぶ様子】

2 今後の課題

- ・ 本研修により向上した教職員の防災意識を、どのような形で次回避難訓練につなげるか。また、生徒の防災教育をどのように実施し、充実を図るか。
- ・ 本事業を活用し、再度マニュアルの見直しや検討を行い、修正等につなげていくこと。

關係資料

令和3年度 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領

1 趣旨

南海トラフ地震が今後30年以内に70～80%の確率で発生すると言われていた中、各学校（園）においては、危機管理マニュアル等の継続的な検証・見直しによる防災体制の整備、実効性のある避難訓練の実施による地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築・整備が求められている。また、災害発生時において、発達段階に応じて児童生徒等一人ひとりが状況を的確に判断し、学校（園）や社会の一員として適切に行動することができる能力や態度を育成する、防災教育の充実がますます重要となってきた。

そこで、本事業は、所在地が津波浸水予想区域や土砂災害警戒区域に含まれる学校（園）、災害環境や課題が共通する学校（園）、防災をテーマとした研修会、研究団体等に本事業の活用を希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言等を行うことによって、各学校（園）等の防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図ることをねらいとして実施するものである。

2 事業内容

香川県教育委員会が、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する推進委員会の助言のもとに講師を派遣する。

- (1) 派遣期間 令和3年6月21日～令和3年12月27日
- (2) 派遣校（園）等数 公立学校（園）、国立・私立学校（園） 40校（園）程度
- (3) 派遣回数及び時間 各学校（園）等に2回まで派遣、1回につき2時間程度

※ 各学校（園）等からの事前連絡と「学校防災アドバイザー派遣申請書（別紙様式2）の再提出により、最大1回まで追加可能（最大3回まで派遣可能）

- (4) 主な派遣講師 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員、香川県防災士会所属防災士、日本技術士会四国本部所属技術士、高松地方気象台職員
※ 講師の旅費等はすべて県教育委員会で負担する。

(5) 主な助言内容

- ① 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
- ② 様々な想定や緊急地震速報受信システムの活用、地域の防災関係機関（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織等）と連携した実効性のある避難訓練等への助言
- ③ 小学生向け防災副読本の活用、防災マップ作り、災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言
- ④ その他、本事業の趣旨に沿って学校（園）等と相談

(6) 主な留意事項

地域間や学校間における取組みを共有し、各学校（園）等の防災体制や防災教育の充実を図る本事業の目的から、以下の3点を留意する。

- ① 事前に隣接する学校（園）や地域の防災関係機関等（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織、教育委員会等）に周知・連絡を行い、事業当日に可能な範囲でオブザーバーとして参加をしていただくこと。
- ② 事業当日、参加している関係者との情報共有を図ること。
- ③ アドバイザー派遣を希望する活動の事前と事後の取組みの充実を図ること。

3 事業活用の申請・決定等

(1) 申請手続き

本事業の活用を希望する学校（園）等は、「学校防災アドバイザー活用希望調査（別紙様式1）」を作成し、令和3年5月14日（金）までに、**電子メール**で提出する。

- ・各公立幼・小・中・高等学校（園）…所管の市町（学校組合）教育委員会教育長あて
及び関係市町公立幼稚園所管課長あて
- ・県立学校及び国立学校（園）…県教育委員会保健体育課長あて
- ・私立学校（園）…総務学事課長あて

(2) 派遣校（園）等の決定

本事業第1回推進委員会（6月上旬に開催予定）において、下記の条件等をもとに派遣校（園）を決定し、各公立幼・小・中・高等学校（園）等は所管の教育委員会を、私立学校（園）は総務学事課を通じて、県立学校及び国立学校（園）は各学校長あてに、文書で通知する。

- ① 域内で防災関係機関等及び災害環境がよく似た隣接する複数の学校（園）等と連携した取組みを実施しようとする学校（園）
- ② 所在地が津波浸水予想区域や土砂災害警戒区域に含まれる学校（園）
- ③ 防災をテーマとした研修会、研究団体等
- ④ 所管の教育委員会からモデル的な学校として推薦された学校（園）

(3) 派遣決定後の手続き

派遣校（園）等は、派遣決定の文書が届いた後、事業実施3週間前までに、「学校防災アドバイザー派遣申請書」（別紙様式2）、危機管理マニュアル作成チェック表（別紙様式3）、危機管理マニュアル（各学校（園）作成のもの）**それぞれ3部**を、**直接県教育委員会保健体育課担当に紙媒体**で提出する。提出した紙媒体をもとに、本事業担当者から学校担当者へ電話にて打合せを行い、その情報をアドバイザー等に共有する。

4 事業終了後の提出物等

(1) 学校防災アドバイザー派遣事業報告書（別紙様式4）

事業がすべて終了後、2週間以内に「学校防災アドバイザー派遣事業報告書（別紙様式4）」1部、事業の様子がわかる写真2～3枚（事業報告書内への挿入可）及び、事業当日の参考資料A4版1枚程度を、**直接県教育委員会保健体育課担当に電子メール**で提出する。

※ 報告書は、県教育委員会が作成する「ホームページ」及び「事業報告書冊子」等での公開を予定していますので、作成に当たり、個人情報保護や著作権（作品の掲載、引用等）に十分注意すること。

※ 報告書の作成に当たっては、学校（園）等の課題に対するアドバイザーの具体的な助言例や、それに対する改善例をできるだけ記載すること。

(2) 学校防災アドバイザー派遣事業アンケート（別紙様式5）

事業がすべて終了後、2週間以内に「学校防災アドバイザー派遣事業アンケート（別紙様式5）」1部を、**直接県教育委員会保健体育課担当に電子メール**で提出する。

5 その他

派遣決定後の手続き及び事業終了後の提出物等に係る様式（別紙様式2～5）については、派遣校（園）等の決定通知とともに送付する。

〈参考〉令和2年度学校防災アドバイザー派遣事業報告書（県教委保健体育課HPで公開中）
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/15173/r2adobaiza.pdf>

香川県教育委員会事務局
保 健 体 育 課 長 殿

学校(園)名
学校(園)長名

令和3年度 学校防災アドバイザー派遣申請書

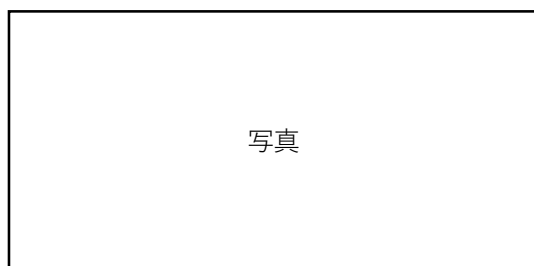
次のとおり、学校防災アドバイザーの派遣を申請します。

学 校 (園) 等 の 名 称	
耐 震 化 の 有 無	
派 遣 内 容 (1 回 目)	
日 時	年 月 日 () : ~ :
場 所	
対 象 者 参 加 予 定 人 数	幼児児童生徒 約 名 教職員 約 名 ク ラ ス 数 クラス (特別支援学級 クラス)
外 部 より 当 日 参 加 可 能 な 防 災 関 係 者	参加予定合計 名 隣接する学校 (園) 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他 () 名
アドバイザーに助言してもらいたい内容とその時間配分をできるだけ具体的に	
派 遣 内 容 (2 回 目)	
日 時	年 月 日 () : ~ :
場 所	
対 象 者 参 加 予 定 人 数	幼児児童生徒 約 名 教職員 約 名 ク ラ ス 数 クラス (特別支援学級 クラス)
外 部 より 当 日 参 加 可 能 な 防 災 関 係 者	参加予定合計 名 隣接する学校 (園) 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他 () 名
アドバイザーに助言してもらいたい内容とその時間配分をできるだけ具体的に	
連 絡 先	(学校所在地) 〒 (担当・氏名) (電話等) TEL () -

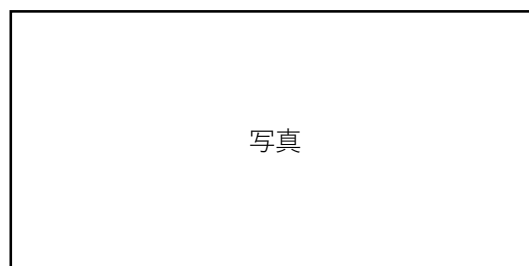
(別紙様式4)

令和3年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校(園)の名称	
派遣内容	
日時	令和 年 月 日 () : ~ :
場所	
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 名 教職員 約 名 クラス数 クラス (特別支援学級 クラス)
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 名 隣接する学校(園) 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他 () 名
内容・日程等	
取組における成果	
今後の課題	



(タイトル)



(タイトル)

(別紙様式5)

令和3年度 学校防災アドバイザー派遣事業アンケート

問1 学校(園)名

問2 本事業の活用は今回が何回目となりますか。 回目
注) 同一年度に2回以上活用した場合も、1回に数える

問3 防災アドバイザーの助言及び成果について、以下の項目を4段階で評価してください。
※ただし、貴校(園)の本事業活用の要望に該当する項目のみ回答をお願いします。(今回の助言内容に直接関係しない項目は空欄のまま提出してください。)

(4:大いに当てはまる 3:当てはまる 2:当てはまらない 1:全く当てはまらない)

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| ① 助言内容はわかりやすかった。 | ① <input type="text"/> |
| ② 助言内容は学校(園)の要望に沿ったものであった。 | ② <input type="text"/> |
| ③ 学校(園)等の災害環境の把握につながった。 | ③ <input type="text"/> |
| ④ 危機管理マニュアル等の見直しにつながった。 | ④ <input type="text"/> |
| ⑤ 実効性のある避難訓練の見直しにつながった。 | ⑤ <input type="text"/> |
| ⑥ 地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった。 | ⑥ <input type="text"/> |
| ⑦ 発達段階に応じた防災教育の充実につながった。 | ⑦ <input type="text"/> |
| ⑧ 教職員の防災意識の向上につながった。 | ⑧ <input type="text"/> |
| ⑨ 児童生徒等の防災意識の向上につながった。 | ⑨ <input type="text"/> |
| ⑩ 保護者等の防災意識の向上につながった。 | ⑩ <input type="text"/> |

問4 上記①～⑩以外の成果について具体的に書いてください。

問5 防災アドバイザーの助言等について、ご意見、ご要望、ご感想などがあればお書きください。

令和3年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱

(目的)

第1条 各学校(園)等の防災体制の整備や防災教育のさらなる充実を図るため、「学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会」(以下「委員会」という。)を設置し、各学校(園)等における防災体制の整備や防災教育の実施状況及び在り方等に助言するとともに、学校防災アドバイザーの派遣校(園)の決定及び派遣に係る検証等を行うものとする。

(業務)

第2条 委員会は、次の業務を行う。

- (1) 学校防災アドバイザーの派遣校(園)の決定
- (2) 学校防災アドバイザー派遣に係る助言
- (3) 学校防災アドバイザー派遣事業による、学校(園)と地域の防災関係機関等との連絡・協力体制の構築に係る助言
- (4) 学校防災アドバイザー派遣事業報告による事業の検証

(組織)

第3条 委員会の委員は、防災に関する有識者(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、香川県防災士会、日本技術士会四国本部、危機管理課、消防局等代表)、幼・小・中・高・特別支援学校代表、保護者代表、関係行政機関の職員のうちから、香川県教育委員会教育長が委嘱または任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、令和3年6月14日から令和4年2月28日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。また、副委員長若干名を置き、委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理する。
- 4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって決する。可否同数のときは議長の裁決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、香川県教育委員会事務局保健体育課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱で定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

- 1 この要綱は、令和3年6月14日から施行し、令和4年2月28日をもって廃止する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、1回目の会議は教育長が招集する。

